

長野県「山の日」懇話会 次 第

－ 第 1 回 －

日時 平成 25 年 6 月 5 日 (水) 午前 9 時 30 分から正午まで
場所 県庁 3 階特別会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 有識者御紹介

4 全体スケジュール及び長野県山の日懇話会の概要等

5 会議事項

(1) 長野県の「山の日」(仮称)の制定等について

(2) 有識者による意見交換

6 閉 会

「長野県『山の日』懇話会」の設置について

長野県

1 目 的

全国有数の「山岳県」・「森林県」である本県において、長野県の「山の日」(仮称)の制定に関する検討を行うにあたり、各界の有識者の皆様から「山」に関する様々な意見・提案等をお聞きするための場として、「長野県の『山の日』(仮称)の制定に関する有識者懇話会」(以下「長野県『山の日』懇話会」という。)を設置する。

2 会議事項

長野県山の日懇話会では、以下に掲げる事項に関する意見交換及び提案等を行う。

- ① 長野県の「山の日」(仮称)の制定の趣旨、目的及び理由
- ② 長野県の「山の日」(仮称)の期日及び名称の案
- ③ 長野県の「山の日」(仮称)の趣旨に沿った取組
- ④ その他「山」に関する情報の共有及び課題等の提起

3 有識者名簿

別紙のとおり

(注)要綱等により期間を定めて設置(委嘱)するものではなく、その都度有識者として招聘

4 開催回数

2回程度

(注)第3回以降については、第2回までの状況から勘案し、開催等の必要性を検討

5 会議行程案

(1) 第1回(平成25年6月5日(水)午前9時30分から正午まで)

- ・事務局からの経緯説明等
- ・各有識者の長野県の「山」に対する思いや課題等に関する自由発言
- ・長野県の「山の日」(仮称)の制定の趣旨等に関する意見交換
- ・長野県の「山の日」(仮称)の期日等に関する意見交換

(2) 第2回

- ・長野県の「山の日」(仮称)の期日及び名称の案に関する意見交換及び提案等
- ・長野県の「山の日」(仮称)の趣旨に沿った取組に関する意見交換及び提案等

6 幹事(事務局)

環境部自然保護課、観光部観光企画課、林務部森林政策課(事務局)、教育委員会スポーツ課

(注)幹事の他、関係部局(課)による庁内連絡会議を設置

別紙

「長野県『山の日』懇話会」参加者名簿

(五十音順、敬称略)

構 成 員 名	役職名	氏 名	備 考
北アルプス山小屋友交會	会長	赤 沼 健 至	あかぬま けんじ
登山家	—	井 上 のぞみ	いのうえ のぞみ
大町市	市長	牛 越 徹	うしこし とおる
(公社)日本山岳會信濃支部	総務担当	垣 内 雄 治	かきうち ゆうじ
蝶ヶ岳ヒュッテ	代表	神 谷 圭 子	かみや けいこ
北アルプス登山案内人組合連合會	事務局	木 谷 功七郎	きたに こうしちろう
長野県中学校校長會	幹事	神 津 長 生	こうづ なおお
八ヶ岳観光協會	会長	島 立 健 二	しまだて けんじ
根羽村森林組合	—	杉 山 紘 子	すぎやま ひろこ
信州大学山岳科学総合研究所	所長	鈴 木 啓 助	すずき けいすけ
木曾町	町長	田 中 勝 已	たなか かつみ
(一社)信州・長野県観光協會	専務理事	塚 田 英 雄	つかだ ひでお
クッキングコーディネーター	—	浜 このみ	はま このみ
長野県木材協同組合連合會	理事長	細 川 忠 國	ほそかわ ただくに
北アルプス北部山小屋組合	代表	松 沢 貞 一	まつざわ ていいち
(社)長野県経営者協會	専務理事	水 本 正 俊	みずもと まさとし
長野県山岳協會	会長	宮 本 義 彦	みやもと よしひこ
ライター	—	山 本 佳 子	やまもと よしこ
八ヶ岳山岳ガイド協會	会長	米 川 正 利	よねかわ まさとし
長野県自然保護連盟	理事長	渡 辺 隆 一	わたなべ りゅういち
		20名	

[オブザーバー]

環境省長野自然環境事務所	所長	小 沢 晴 司	おざわ せいじ
林野庁中部森林管理局	計画保全部長	宿 利 一 弥	しゅくり かずや

[事務局(長野県の「山の日」制定庁内連絡會議 幹事)]

長野県林務部	部長	塩 入 茂	
長野県環境部自然保護課	課長	市 村 敏 文	
長野県観光部観光企画課	課長	浅 井 秋 彦	
長野県林務部森林政策課	課長	有 賀 秀 敏	
長野県教育委員会スポーツ課	課長	茅 野 繁 巳	
長野県林務部森林政策課	企画幹	石 井 康 彦	

長野県の「山の日」(仮称)の制定について

1 これまでの経過

- (1) 県議会の動き ・・・詳細資料① 1、2 p
- ・平成5年：「海の日」の制定に向け、9月議会で「海の日・山の日」の制定に関する意見書議決(全国的には「海の日」の制定に関する意見書)
 - ・平成7年：「海の日」制定(国民の祝日に関する法律改正(平成8年施行))
 - ・平成9年：2月議会で「森林づくりに県民の意識を向けさせるための県独自の「山の日」の制定」に関する質問(知事：県民気運の醸成が必要)
 - ・平成25年：2月議会で「総合5か年計画の柱の一つである山岳観光の振興を図るための『山の日』の制定」に関する質問(知事：平成26年度の制定向け具体的に検討)

(2) 県の取組

- ① 平成25年度を期首とする5か年間の総合計画として、「しあわせ信州創造プラン」を策定し、「世界水準の山岳観光地づくり」を推進
- ② 民間との協働による山岳環境保全の取組を推進 ・・・詳細資料① 3、4 p
- ③ 新たに滞在型観光地づくりを推進、山岳遭難防止対策等を拡充 ・・・詳細資料① 5～8 p
- ④ 県民に身近な「里山」の森林整備を集中的に進める「森林づくり県民税」の継続
- ⑤ 平成28年開催予定の第67回全国植樹祭の誘致
- ⑥ 世界に誇れる信州の農村景観の育成の推進 ・・・詳細資料① 9、10 p
- ⑦ 土砂災害に対する砂防施設の整備等

2 都道府県独自の制定の状況(H25. 4. 1現在) ・・・詳細資料① 11 p

区分	「山の日」等を制定(()数値：月間等の併設)		「山」や「森」に関する月間等を設定	なし	
	山の日	森の日			
府県	26	13 (3)	13 (2)	5	16

3 県内市町村の動向

北安曇郡松川村が5月第3土曜日を「安曇野松川村山の日」に制定 (H23：県下初)

4 長野県の「山の日」(仮称)の制定に向けた検討

- ① 県政モニターによる県民意識調査の実施(H25)
 - ・山(山岳・森林)に関するイメージ、関わり方、課題認識等の把握
 - ・長野県の「山の日」(仮称)の制定理由、時期及び名称等の意向調査
- ② 長野県山の日懇話会の開催(H25)
 - ・様々な分野の有識者による「山」に関する意見交換の場の設置(2回程度)
 - ・意見交換の結果の取りまとめ
- ③ 県議会への説明等
 - ・6月以降の定例会中に、県議会に、①県民意識調査の結果、②「有識者懇話会」での意見の内容等を説明し、その上で御意見等を聴取する場を設定
- ④ 「山の日」制定の公表
 - ・「山の日」制定シンポジウムの開催(8月頃)
 - ・県の考え方を公表し、パブリックコメント、市町村等への意見聴取を実施(9月頃)
- ⑤ 「山の日」を通じた様々な取組の検討
 - ・山岳環境の保全、山岳観光の振興、山岳教育の振興、健全な森林づくり等の様々な分野での取組の推進

長野県の「山の日」(仮称)の制定に関する検討項目について

1 平成 25 年度第 1 回県政モニターアンケート調査の結果 . . . 詳細資料② 1～9 p

(1) 県政モニター(1,220 人)に対し、調査を実施：回答者：851 人(69.8%)

(2) 主な調査項目と傾向

① 長野県の「山」のイメージ

「清浄な空気や水を育む場」としてのイメージが全体の約 8 割

② 「山」に関する課題

「オーバーユース」、「森林荒廃」、「野生鳥獣被害」等、様々な課題を認識

③ 長野県の「山の日」(仮称)の制定に対する賛否等

「賛成」又は「条件付きで賛成」と答えた方が約 7 割

④ 長野県の「山の日」(仮称)の制定期日等

5 月～8 月にかけて様々な意見

⑤ 長野県の「山の日」(仮称)の名称

「山の日」が多く、次いで「信州(の)山の日」

2 長野県の「山」の特性 . . . 詳細資料② 10 p

(1) 全国第 1 位

- ・ 国土地理院発表の「3,000 峰」：15 座(全国：23 座)
- ・ 「山と溪谷社」調べ「山小屋数」：173 軒(全国 707 件)

(2) 全国有数

- ・ スキー場の数：77 箇所(全国第 2 位、第 1 位：北海道(85 箇所))
- ・ 自然公園面積：28 万 ha(全国第 3 位、第 1 位：北海道(87 万 ha))
- ・ 森林面積：106 万 ha(全国第 3 位、第 1 位：北海道(554 万 ha))

(3) その他

- ・ 日本三大峠(雁坂峠(秩父)、針ノ木峠、三伏峠)
- ・ 日本三大雪渓(剣沢大雪渓、白馬大雪渓、針ノ木大雪渓)
- ・ 日本三大美林(青森ヒバ、秋田スギ、木曾ヒノキ)

3 長野県の「山」の現状及び課題等

(1) 観光利用者数の推移 . . . 詳細資料② 11 p

- ・ 過去 10 年間で、「山岳・高原・湖沼」の観光利用者数は約 1,100 万人余減少

(2) 山小屋トイレの現状 . . . 詳細資料② 12 p

- ・ 立地条件が厳しいため、建設費、維持費がかかり整備が進みにくい状況

(3) 野生鳥獣被害 . . . 詳細資料② 13～17 p

- ・ シカによる被害は農林業にとどまらず、交通事故の多発や高山植物の食害にも拡大

(4) 登山学習・スキー教室の実施状況 . . . 詳細資料② 18 p

- ・ 小学校ではスキー教室、中学校では登山学習が盛ん

4 「山」に関する記念日、月間、週間等

(1) 山開き等の行事 . . . 詳細資料② 19 p

- ・ 長野県では、4 月下旬から 7 月下旬にかけて雪解け前線とともに北上
- ・ 全国的には、奈良県の若草山では 3 月上旬、富士山は 7 月第 1 日曜日

(2) 国民の祝日・月間等 . . . 詳細資料② 20～22 p

- ・ 国民の祝日は 15 日あり、6 月と 8 月は祝日のない月
- ・ 月間等は、様々な目的のものが設定されており、イベント等が開催されている状況
- ・ 長野県の設定している記念日は、現在のところなし

長野県「山の日」懇話会 詳細資料 ①

資料 1-1	「山の日」を巡る情勢について	・・・ 1
資料 1-2	県議会における「山の日」に関する質疑等	・・・ 2
資料 1-3	民間との協働による山岳環境保全事業について	・・・ 3
資料 1-4	山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり推進事業	・・・ 5
資料 1-5	山岳遭難防止対策推進事業の充実について	・・・ 6
資料 1-6	信州登山案内人の利用促進事業について	・・・ 8
資料 1-7	世界に誇る信州の農村景観育成事業について	・・・ 9
資料 1-8	都道府県における「山」・「森」等に関する記念日等の設置状況	・・・ 11

平成 25 年 6 月 5 日

長野県

「山の日」を巡る情勢等について

年 月	内 容
平成5年4月	島根県が「森の誕生日」を制定(4月29日)
平成5年9月	県議会において「海の日・山の日」の制定に関する意見書を議決
(平成7年)	(国民の祝日に関する法律改正「海の日」(7月20日)制定:平成8年施行)
平成9年2月	県議会で「県民の意識を森林づくりに向けさせるための県独自の「山の日」を制定するよう」要請(知事:県民気運の高揚が必要と答弁)
平成9年8月	山梨県が「山の日」を制定(8月8日)
平成14年	国際山岳年
(平成15年)	(国民の祝日に関する法律改正「海の日」が7月第3月曜日に移行)
平成15年12月	県議会で改めて「海の日・山の日」とするよう意見書を議決
平成16年	「長野県ふるさとの森林づくり条例」制定、10月を「森林づくり県民運動推進強調月間」に設定
平成18年5月	岐阜県が「山の日」を制定(8月8日)
平成19年2月	長野県議会山岳環境保全対策議員連盟から農林水産大臣に全国統一の「山の日」を制定するよう要請
平成19年12月	県議会から「長野県森林づくり県民税」の導入を県民に周知する目的で「山の日」を制定するよう要請(部長:広報媒体を活用し周知)
平成20年2月	県議会から「森林税」の導入により県民気運の醸成は進んでいることから、「山の日」を制定するよう要請(知事:引き続き研究)
平成22年4月	山岳5団体による「山の日制定協議会」設立
平成23年10月	「山の日制定協議会」が、国に全国統一の「山の日」の制定を要望
平成23年10月	関東地方知事会において、栃木県から全国統一の「山の日」制定の議題を提案し、国に対し要請
平成23年11月	松本市が「岳都・山岳フォーラム2011」を開催、全国統一の「山の日」の制定を呼びかけ
平成23年11月	県議会から「森林税」の延長を視野に「里山の日」を制定するよう要請(知事:国民の祝日化を優先)
平成23年12月	松川村が、村独自の「あづみの松川山の日」(5月第3土曜日)を制定
平成23年12月	森林・林業・林産業活性化促進議員連盟長野県連絡協議会から農林水産大臣に全国統一の「山の日」を制定するよう要請
平成24年2月	県議会から、他県でも独自の制定が進んでおり、全国有数の山国であることを発信するための「信州山の日」を制定するよう要請(知事:国民の祝日化とともに県独自の日の情報収集等を行い研究)
平成24年5月	関東甲信越1都9県県議会議長会から全国統一の「山の日」の制定を国に対し要望
平成24年6月	日本大学、「山の日制定協議会」等が主催し、国際山岳年プラス10シンポジウムを開催、全国統一の「山の日」を「6月第1日曜日」とすることを提案
平成24年6月	知事から農林水産大臣に全国統一の「山の日」の制定を要請
平成24年7月	知事から観光庁長官に全国統一の「山の日」の制定を要請
平成24年8月	中部圏知事会議において、長野県から全国統一の「山の日」の制定の議題を提案し、国に対して要請
平成24年10月	「山の日制定協議会」が「山の日東京ネットワーク会議」(東京都)を開催し、山岳、観光、教育、林業関係者等による意見交換を通じ、「6月第1日曜日」を推奨することで確認(知事出席)
平成24年10月	関東地方知事会において、長野県から全国統一の「山の日」制定の議題を提案し、国に対し要請
平成24年10月	「山の日制定協議会」発展的解散、日本山岳ガイド協会(谷垣禎一会長)が中心となり、新たな組織の立ち上げを計画(現在進行中)
平成24年11月	松本市が「岳都・山岳フォーラム2012」を開催、全国統一の「山の日」の制定を呼びかけ(知事出席)
平成24年11月	中部圏知事会議において、長野県から全国統一の「山の日」の制定の議題を提案し、国に対して要請
平成25年1月	森林・林業・林産業活性化促進議員連盟長野県連絡協議会から農林水産大臣に全国統一の「山の日」を制定するよう要請
平成25年2月	県議会から、総合5か年計画の中でも山岳観光の振興等を柱の一つとしている中で県独自の「山の日」を制定するよう要請(知事:平成26年度の制定に向け具体的に検討)
平成25年4月	超党派の国会議員による「山の日」制定議員連盟発足(衛藤征士郎会長、務台俊介事務局長)
平成25年4月	三重県知事との懇談に、長野県から全国統一の「山の日」の制定の議題を提案し合意
平成25年5月	県市長会から全国統一の「山の日」の制定に関する要望
平成25年5月	知事及び市町村長共同で、関係省庁及び県関係国会議員に全国統一の「山の日」制定を要請する予定

県議会における「山の日」に関する質疑等

質問者	質問内容	答 弁 要 旨
平成9年2月県議会 中村善行 議員	<p>「山の日」の制定について、日本の森林が持っている公益的機能を保全していくためには、森林・山村対策を振興していく上で、さまざまな恩恵を享受している県民全体の協力が必要であり、先人たちがたゆまない努力により育ててきた森林を見詰め直さなければならないと考え、「海の日」に対し、長野県にとっては海以上に貴重な山を再認識するため、長野県独自で「山の日」を制定し、県民こぞって森林づくりを推進することこそ、21世紀の長野県づくりに必要なことではないか。</p>	<p>(知事) 「山の日」については、森林から受けている恵みに感謝し、これを振興するための方策の一つとして、県民の関心を高めるという意味では一つの方法と考えるが、国では4月29日が「みどりの日」であることから、<u>県民の関心が盛り上がりながら制定することは困難</u>であり、これから<u>十分研究</u>してまいる考え。</p>
平成19年12月県議会 今井正子 議員	<p>(森林づくり県民税の創設に関連し) <u>県民の森林づくりに関する意識を高めるためには、山の日、森林の日のようなものを定め、住民参加の間伐の作業への参加とか里山の下草刈りを企画してはどうか。</u></p>	<p>(林務部長) 森林の日というような特定の日を制定することも一つの方法と認識しているが、条例の基本理念である県民の理解と主体的な参加による森林づくりの機運の醸成を図る中で研究していききたいとの考え。</p>
平成20年2月県議会 倉田竜彦 議員	<p>(森林税を通じ)「山の日」の制定に向けての県民の意識は醸成されてきており、<u>森に感謝をし、そして森の恵みに感謝をする</u>という意味合いを込めて山の日を制定するべきではないか。</p>	<p>(知事) 長野県山の日というような特定の日を制定して県民参加の拡大を図るとすることも確かに有効な方法だろうと認識しているが、県民への普及啓発活動を積極的に展開して、みんなで支えるふるさとの森林づくりの機運の醸成を図りながら研究してまいりたい。</p>
平成23年11月県議会 清沢英男 議員	<p><u>里山について県民の皆さんが考え、行動するきっかけにできるように「里山の日」を制定したらどうか。</u> もとより、全国的な祝日山の日を制定は申し分ないが、他県にも独自の山の日があるように、長野県として、<u>まほろば信州の里山の日</u>があってもいいのではないかと考える。</p>	<p>(知事) 長野県の「山」は、暮らしと自然をつなげる場所、環境をしっかりと持続可能性のあるものにして、子ども達に引き継いでいく場所として非常に重要であり、長野県としては、まずは全国的な動きとして、県議会とも連携して取り組み、他の県をみると独自に山の日を作っているところもあることから、全国的なもの、県として<u>どんなことができるのか研究</u>してみたい。</p>
平成24年2月県議会 佐々木祥二 議員	<p>山と海は山海一体であり、親友であり深い仲でもありるとともに、<u>日本の伝統文化は、皆山から来ているのである</u>と言っても過言ではないと考え、全国的な取組に加えて、本県の「<u>信州山の日</u>」を制定し、<u>長野県から日本に世界に情報発信</u>すべきと考える。</p>	<p>(知事) 長野県は森林県であると同時に全国有数の山岳県だと考えており、全国レベルで山の日というものが制定されることが望ましいと考えるが、長野県は県独自の記念日の制定が少ないと感じており、<u>他県の状況等についても良く情報収集</u>を行って、今後、研究していきたい。</p>
平成25年2月県議会 宮本衡司 議員	<p>森林を育てている本県の山々は、すばらしい景観の形成、多様な動植物の生息の場、豊かで清らかな水や空気を育む場、山岳観光やスポーツなど、県民生活に不可欠な存在であり、改めて <u>県民に山の大切さを広く認識していただく取組</u>として「山の日」の制定は有効な手段。山岳観光の振興等を盛り込んだ長野県総合5か年計画、森林づくり県民税の継続、平成28年全国植樹祭の誘致など、<u>県の山の日を制定するに相応しい時期である</u>と考える。</p>	<p>(知事) 県民等が山の恵みに感謝し、さらにその山を活かしつつ、未来に引き継いでいく気運の醸成の機会として、また様々な課題に対する問題意識を県民全体で共有する機会として、<u>長野県独自の山の日を制定していくことが必要</u>と認識しており、<u>県民意識調査の実施や様々な関係者による検討の場の設置等</u>を通じ、できれば平成26年度の制定に向けて取り組んでまいりたい。</p>

民間との協働による山岳環境保全事業について

長野県環境部自然保護課

1 趣 旨

山岳環境の保全と適切な利用、登山者の安全性の確保を目的とし、市町村や山小屋関係者の行う取組みを支援する。

2 内 容

(1) 民間との協働による山岳環境保全事業（6, 400千円）

（環境自然保護基金繰入金 5,282千円、ふるさと信州寄付金繰入金 1,118千円）

ア 目 的

民間企業等の寄付を活用し、登山道の維持管理、山岳環境保全施設の整備を進めることにより、貴重な財産である山岳環境の保全を図る。

イ 補助内容

事業主体	市 町 村	山小屋関係団体
対象事業	<ul style="list-style-type: none"> 登山道等の施設整備 高山植物保護のためのシカ柵の設置等 携帯トイレ施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 登山道の維持・補修に必要な資材等の購入
補助率	事業費の10/10	資材費の10/10
対象地域	県内の自然公園	

ウ 事業実績と計画

	市町村分		山小屋関係団体分		合 計	
	件数	補助額	件数	補助額	件数	補助額
H21	3件	3,327千円			3件	3,327千円
H22	5件	7,631千円			5件	7,631千円
H23	9件	8,793千円	5件	2,052千円	14件	10,845千円
H24	6件	3,841千円	3件	1,580千円	9件	5,421千円
H25計画	3件	3,414千円	4件	2,586千円	7件	6,000千円

エ 長野県山岳環境連絡会(仮) 準備会の開催（400千円）

山域ごとの取組みや課題等を共有し、長野県全体の山岳環境の保全に向けた連携を図るための連絡会の設置について、関係者間の合意形成を図る。

(2) 山岳環境緊急総点検事業（10,000千円）

（重点分野雇用創出基金繰入金）

ア 目的

長野県は、年間60万人の登山者が訪れる山岳県である。

近年、中高年登山、ツアー登山、山ガールなどのブームにより登山者層が多様化しており、登山者が求める登山道の整備水準等も変化してきている。

このため、登山道等の現状について調査、把握することにより、山岳環境の保全と適正な利用の確保に資するものとする。

イ 現状及び課題

(ア) 現状

- ・ 長野県内の自然公園内には、1,000kmを超える登山道があるが、その多くが自然発生的に成立してきたことから、管理者が不明確なものが殆どである。
- ・ 県内の各山域において、登山道の整備水準に差が生じている。
- ・ 管理者が不明確な登山道の維持管理は、主に山小屋関係者等がボランティア的に行われており、県は資材費等に支援している。



(イ) 課題

登山者の安全や山岳環境の保全を図るため、県下の各山域について共通の視点で登山道の現況を把握し、計画的に整備を進める必要がある。

ウ 調査内容

- ・ 登山道の現況・利用状況・荒廃状況の把握
- ・ 山小屋事業者の維持管理の実態把握
- ・ 登山道の維持管理に係る整備方針の検討

エ 事業効果

- ・ 県内の登山道の実態を把握することにより、登山道の計画的な整備を推進できる。
- ・ 県内の各山域において、登山道の整備方針に基づく一定水準の登山道が整備されることにより、利用状況に応じた登山者の安全・安心、山岳環境の保全が図られる。

3 予算額 16,400千円（平成24年度 8,000千円）

⑧ 山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり推進事業

長野県観光部観光企画課

1 目指す姿

- (1) 「3000m級の山岳など他県にない自然と美しい景観、自然を守り共生してきた信州の暮らし」などの信州らしさを追求するとともに「多彩な滞在メニュー、充実した観光案内、魅力あるまちづくり」など世界水準のリゾートを参考に、次の3つをポイントとした「滞在型観光地」を目指す。
- ① 徹底した環境保全と信州らしい美しい景観
 - ② ゆったりと楽しく過ごせる
 - ③ 誰にでもわかりやすく使いやすい旅行環境
- (2) これらは、地域が主体となった自立的・持続的な活動の上に成り立つものであり、その意向のある市町村、関係者と協働して滞在型観光地づくりを行う。

2 平成 25 年度事業

(1) 目的

- ア 有識者、市町村・県等関係者が、滞在型観光地の目指す姿、課題、取組の方向性を共有する。
- イ 候補地の幅広い関係者が滞在型観光地づくりを実践していくための意識を共有する。

(2) 事業内容

区分	主な事業内容	予算額 (千円)
①滞在型観光地づくりに関する研究	・ 有識者、市町村関係者等で構成する研究会及びワーキングチームを設置し、滞在型観光地の目指す姿や課題、それを実現するための取組の方向性を明らかにする。	3,363
②専門家の派遣	・ 候補地市町村の具体的な方針策定を支援するため、専門家を派遣する。	322
合 計		3,685

(3) 事業効果

滞在型観光地づくりについて、地域の幅広い関係者に具体的なイメージとプロセスが共有されることにより、その実現に向けた道筋がつく。

3 予算額 3,685千円(一般財源)

4 目標 滞在型観光地づくり候補地の選定 2地域

山岳遭難防止対策について

～世界中のアルピニストが信頼し、訪れる山岳観光県をめざして～

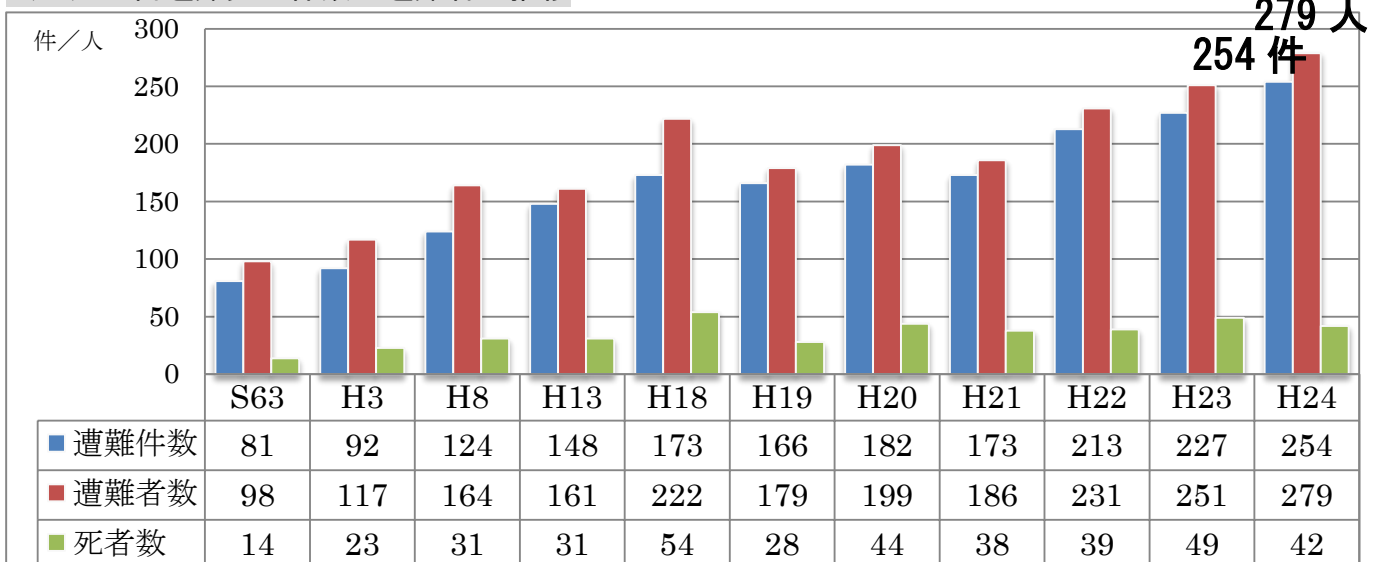
長野県山岳遭難防止対策協会（総務部、防止対策部、救助部）

1 本県の山岳遭難の現状と課題

- 中高年を中心とした登山ブームに加え、山ガールなど若者にも登山人気が高まっており、本県の山岳を訪れる登山者数は年々増加。一方、**山岳遭難発生件数**は、平成22年に200件を超えて以来、**3年連続して過去最多を更新する深刻な事態**。
- 平成25年ゴールデンウィーク中の山岳遭難件数は27件、9名の命が奪われた。これは記録のあるうちでは昭和46年に次いで過去2番目に多い。
- 平成24年の遭難者の約8割が、山岳会などに所属しない「**未組織登山者**」。未組織登山者は知識・技術が身につけていない者が多いと推測され、正確で迅速な情報提供等について検討が必要。

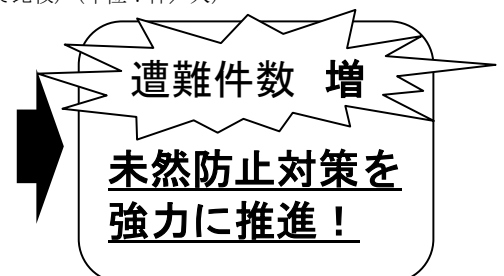
- 平成24年中、長野県内を訪れた**登山者70万5,000人**（前年比10.5%増）
- 平成24年中、**山岳遭難254件**（前年比27件増）、**遭難者279人**（前年比28人増）
- 平成25年遭難発生件数、遭難者数は**過去最悪のペース**。
- 40歳以上の中老年登山者の事故が多発**。約**9割は長野県以外に居住**。

(1) 山岳遭難発生件数と遭難者の推移（単位：件／人）







(2) 平成25年 遭難発生状況【5/26速報値】（1月1日～5月26日まで比較）（単位：件／人）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出等	遭難者計
平成25年	69	18	3	39	21	81
平成24年	48	15	4	23	23	65
前年比	21	3	-1	16	-2	16



2 主な山岳遭難防止対策事業

		H25 予算額
山岳遭難防止対策    	新 山岳遭難対策用無線機の更新 ●遭難発生件数が多い山岳から計画的に更新 ●更新計画（5年間：H25～H29） ➡ H25は北アルプス南部地区30台を更新	4,914 千円 ふるさと信州寄付金活用
	夏山常駐パトロール隊設置（夏山約40日間、北アルプス常駐30人）	17,095 千円
	常駐拠点となる洞沢山岳総合相談所の管理委託	2,300 千円
	主要登山口相談員設置（登山口44箇所、約560人）	3,776 千円
	山岳情報及び山岳気象情報提供等	1,176 千円
	登山道案内標識整備補助事業（地区遭対協へ1/2補助）	210 千円
	新 貸与用ヘルメットの配備 ●指定したヘルメット着用推奨地区の山小屋にヘルメットを配備。登山者へ貸し出し、ヘルメット着用を促進。	0 円 モンベル寄贈品を活用
	新 未組織登山者対策 ●安全登山のための啓発用DVD作成配布 ●人気登山アニメ「岳」の主人公を活用した啓発 ●安全登山啓発ポスターの作成 ●横浜・大阪・仙台モンベルフェアでのセミナー等	0 円
	新 三県（岐阜、富山、長野）広域連携遭難防止対策 ●岐阜県、富山県、長野県の三県が連携して、北アルプス三県安全登山マップ等を作成・配布	210 千円
	救助体制の強化	地区遭対協救助訓練支援、装備品の整備等
夏山診療所への支援 （●夏山診療所を開設している大学・山小屋支援）		460 千円
その他遭難防止対策	新 山岳遭難防止対策協会50周年記念事業 ●長野県遭対協50周年に合わせ、記念講演会、地区遭対協隊員等への特別表彰の実施	233 千円
	地区遭対協運営費補助等	540 千円

3 H25年度予算額 38,016千円

信州登山案内人の利用促進事業について

長野県観光部観光企画課

1 目的

平成 24 年 4 月 1 日から施行した信州登山案内人条例に基づく「信州登山案内人」の資質向上と積極的な P R により、案内人の利用促進を図る。

2 事業内容

(1) 信州登山案内人の資質向上

① 信州登山案内人能力向上研修の開催

	回数	受講者数(見込)
座学	2回	250人
実技	10回	250人

- 新 ② 登山者向けアンケート調査による案内人の評価
案内人利用者に対する満足度調査を実施し、資質向上の施策に活用する。

(2) 信州登山案内人の利用促進

新 ・メディアトリップによるパブリシティ

一般登山者への認知度向上のため、メディアトリップを実施し、信州登山案内人のガイドによる登山が安全で楽しいということを広く P R する。

対象：登山、アウトドアスポーツ関連の出版社

(3) 信州登山案内人試験の実施

- ① 信州登山案内人試験事前説明会の実施（5月）
- ② 信州登山案内人試験の実施（6月）

3 予算額

938千円（証紙収入 632千円 一般財源 306千円）

4 スケジュール

月	4～6	7～9	10～12	1～3
試験及び研修	登山案内人試験		登山案内人研修会 (実技・座学)	
アンケート	調査票作成	登山案内人利用者 回答	集計、分析	結果公表
P R		メディアトリップ		

世界に誇る信州の農村景観育成事業について

長野県建設部建築指導課

1 目指す姿

美しく豊かな農村景観を次世代に継承していくために、①持続的な農林業により農村景観の基盤となる農地・森林が良好な状態に保たれること、②県民が「信州らしさ」や「ふるさと」を実感できる風景づくりを進めて魅力を高めること、③その魅力を内外に発信することで都市との交流や観光を展開し、持続性のある農林業の発展につなげること、の相互間に好循環を創り出し、持続的な農村景観の保全・育成が行われることを目指す。



地形が生み出す変化に富んだ風景の魅力、生産や生活の営みがつくり出す風景の魅力、食べられるものが見える風景の魅力などを生かして、「世界に誇る信州・ふるさと風景づくり」を展開していく。

2 平成 25 年度事業計画

長野県農村景観育成方針の周知を図るとともに、「世界に誇る信州・ふるさと風景づくり」の起点として、ふるさと信州風景百選の発行及び視点場づくりへの補助を行う。

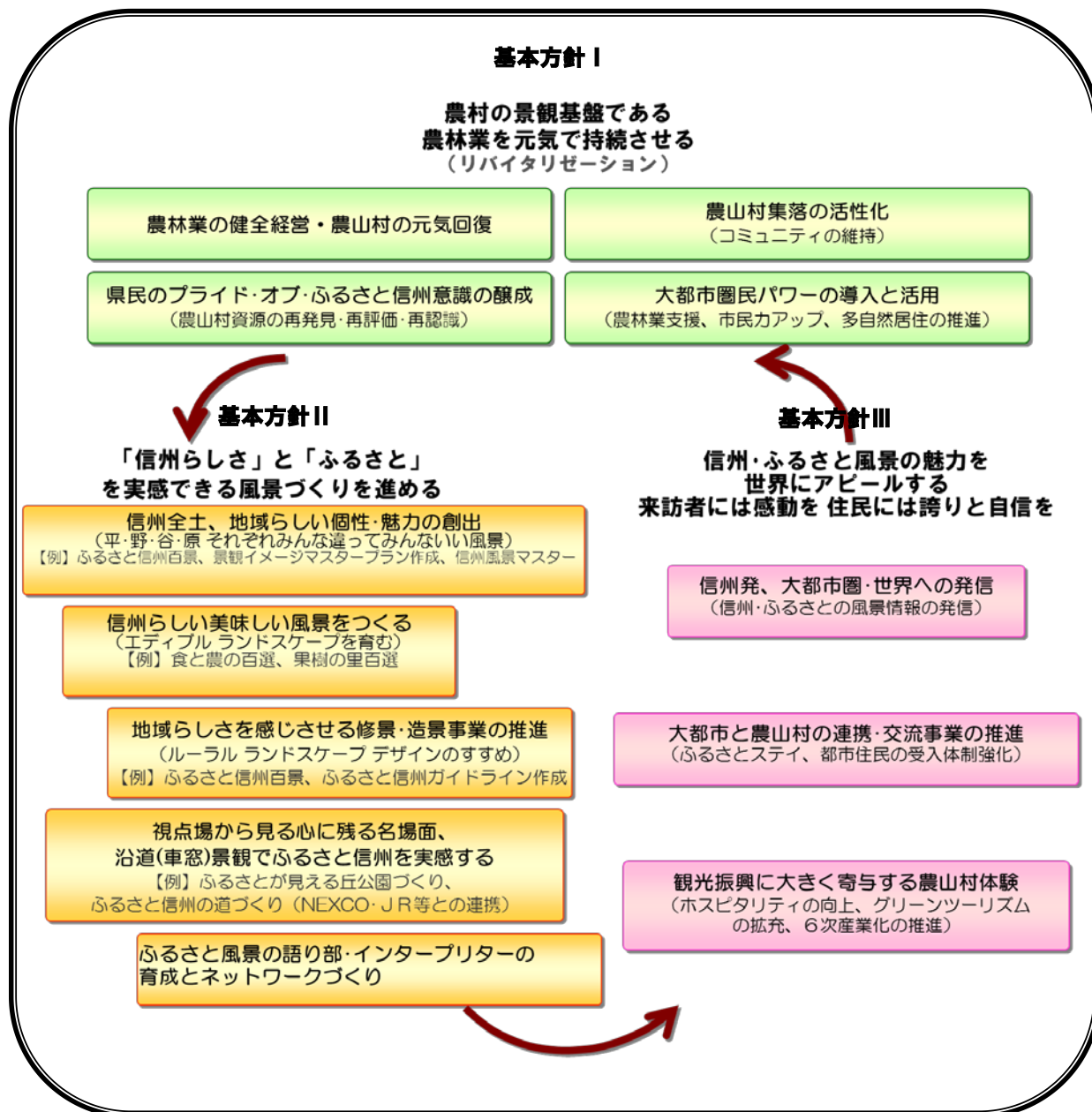
項目 (事業費)	内容	事業効果
ふるさと信州風景百選 (300 万円)	◇ふるさと信州風景百選の刊行 信州を特徴づける風景を百景にまとめ刊行する。 ①【風景写真の募集期間】25 年 4 月～25 年 9 月 ②【審査の方法】10 広域毎に景観協議会委員・公募審査員による地域審査 →県景観審議会委員・有識者による最終審査	県民が、今ある「ふるさと」を再発見し、そこにプライドを持っていただく。 (基本方針Ⅰ～Ⅲ関連)
景観育成の集い (80 万 7 千円)	◇基調講演と対談 ◆1 箇所 ◆対象：一般県民	信州のふるさと景観のすばらしさ、農村景観育成の意義及び景観育成の取組み方法等について県民に PR する。 (基本方針全体)
視点場(ビューポイント) づくり補助 (300 万円)	◇市町村・自治会等が行うビューポイントの開設準備行為に必要な経費の補助 ◆補助先：市町村 ◆補助対象経費：整地、安全柵等 ◆補助率：市町村負担額の 2/3 ◆補助限度額：30 万円 ◆25 年度：10 箇所	すぐれた眺望をもつ既設の公園等に「信州ふるさとの見える丘」とネーミングし、農村景観の魅力を伝える場とするとともに、視対象となる地域の住民に自発的な景観育成活動への参加を促す場とする。 (基本方針Ⅱ関連)

3 平成 25 年度事業費

680 万 7 千円

長野県農村景観育成方針（長野県景観審議会答申）

- 基本方針ⅠからⅢに掲げる一連の取り組みを、地域外の人々の力も取り入れながら、県民、農林業に携わる者、事業者、行政が協働で進める「世界に誇る信州・ふるさと風景づくり」として広く展開し、定着させることを基本目標とする。



都道府県における「山」・「森」等に関する記念日等の設置状況

番号	日程等	都道府県	名称	月間併設		日付等設定根拠
1	4月29日	島根	森の誕生日			「ふるさと森林公園」(松江市宍道町)開設日(全国初)
2	5月18日	千葉	里山の日			第54回全国植樹祭(H15.5.18)
3	6月第1土曜日	山形	やまがた森の日			第53回全国植樹祭(H14.6.2)
4	6月第1日曜日	福井	福井県森づくりの日			第60回全国植樹祭(H21.6.7)
5	6月第1日曜日	広島	ひろしま「山の日」			若葉の季節
6	7月第3月曜日	奈良	奈良県山の日・川の日			国民の祝日「海の日」を選定(海なし県)
7	8月8日	山梨	やまなし山の日			夏休み、「山」の形と「八」の似合せ、国民の祝日のない月
8	8月8日	岐阜	ぎふ山の日、ぎふの山に親しむ月間	8月		夏休み、「山」の形と「八」の似合せ、国民の祝日のない月
9	10月1日	滋賀	びわ湖水源のもりの日、びわ湖水源のもりづくり月間	10月		イベントが開催しやすい時期
10	10月第1日曜日	群馬	ぐんま山の日、ぐんま山と森の月間	10月		第34回全国育樹祭(H22.10.3)
11	10月16日	栃木	元気な森づくりの日			「とちぎの元気な森づくり県民会議」設立日
12	10月最終日曜日	兵庫	ひょうご森の日			第29回全国育樹祭(H17.10.30)
13	11月7日	和歌山	紀州・山の日			「山祭り」(旧暦の11月7日前後)に準拠
14	11月11日	香川	かがわ山の日			「四国山の日」(4県が持ち回りで開催)として制定 木が4本並んでいるイメージ 間伐などの森林整備が本格化する時期
15	11月11日	愛媛	えひめ山の日			
16	11月11日	高知	こうち山の日			
17	11月11日	徳島	四国山の日			(県独自の設定はなく、四国山の日を共同主催)
18	11月第2土曜日	大阪	おおさか「山の日」、山に親しむ推進月間	11月		野外活動が行いやすい時期
19	11月第2日曜日	九州	九州森林(もり)の日	(宮崎:10・11月)		九州森林管理局との協定(福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島)
25	11月第2日曜日	熊本	くまもと森林づくり活動の日(九州森林(もり)の日)			九州森林(もり)の日に準拠
26	2月23日	静岡	富士山の日			2(ふ)2(じ)3(さん)の語呂合せ
27	7月	秋田	水と緑の月間			
28	10月	石川	いしかわの森づくり推進月間			
29	10月	三重	三重の森林づくり月間			
30	10月	鳥取	とっとり森林月間			10月8日の「木の日」に準拠
31	10月	長野	ふるさとの森林づくり県民運動推進強調月間			

長野県「山の日」懇話会 詳細資料 ②

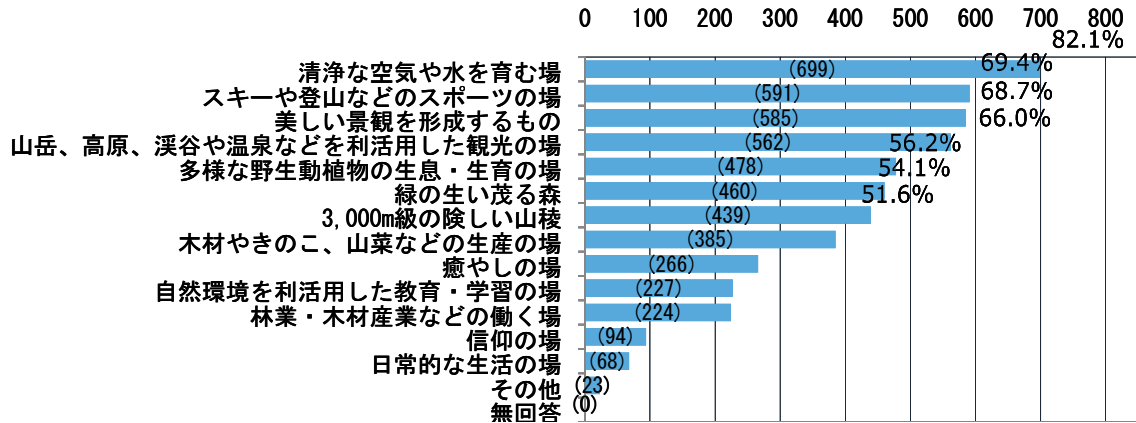
資料2-1	県政モニター調査結果の概要	・・・1
資料2-2	長野県の「山」に関するデータ	・・・10
資料2-3	観光利用者数の推移	・・・11
資料2-4	山小屋トイレの現状	・・・12
資料2-5	ニホンジカ被害の現状等	・・・13
資料2-6	登山学習・スキー教室の実施状況	・・・18
資料2-7	「山」・「森林」に関する行事等	・・・19
資料2-8	全国の月間・週間	・・・20
資料2-9	山や森林等に関する全国的な記念日・期間	・・・21
資料2-10	長野県における「日」・「週間」・「月間」の設定状況	・・・22

平成25年6月5日

長野県

1 長野県の「山」に対するイメージ

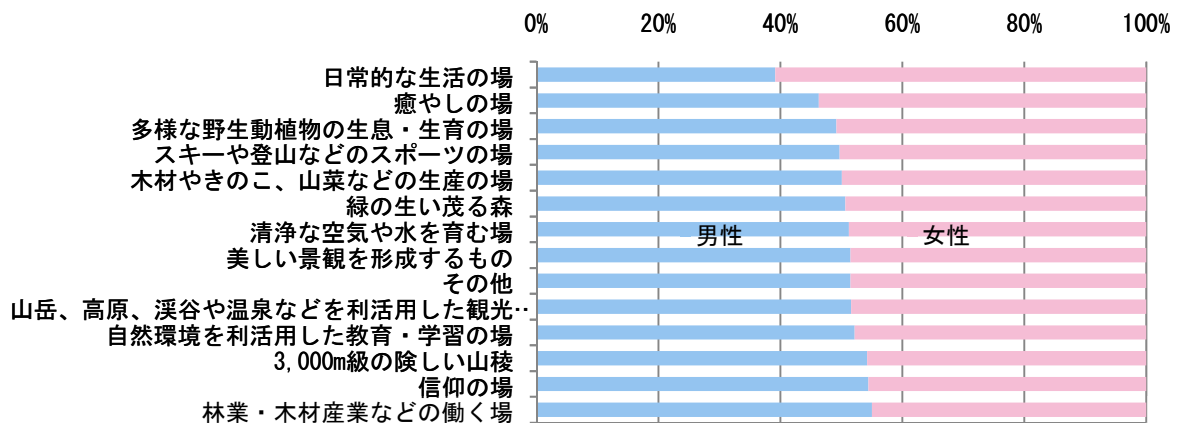
- 全体**
- 「清浄な空気や水を育む場」としてのイメージが約8割
 - 次いで「スキー等のスポーツの場」、「美しい景観を形成するもの」、「山岳等を利活用した観光の場」



- 地域**
- 「清浄な空気や水を育む場」としてのイメージは全県共通で、「景観」、「スポーツ」、「観光」もほぼ共通
 - 一部の地域では、「緑生い茂る森」や「野生動植物の生息等の場」等のイメージが上位

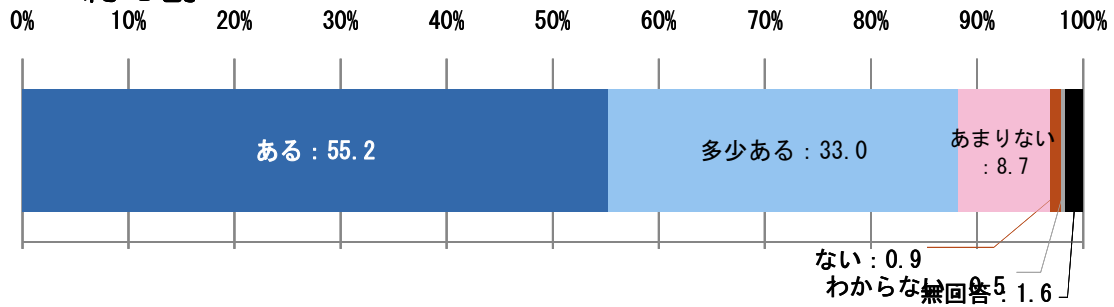
地域	共通(第1位)	その他のイメージ(上位2項目)
佐久・上伊那・飯伊・松本	「清浄な空気や水を育む場」	「美しい景観を形成するもの」 「スキー等のスポーツの場」
上小・大北・長野・北信	「清浄な空気や水を育む場」	「山岳等を利活用した観光の場」 「スキー等のスポーツの場」
諏訪	「清浄な空気や水を育む場」	「美しい景観を形成するもの」 「緑生い茂る森」
木曾	「清浄な空気や水を育む場」	「多様な野生動植物の生息等の場」 「3,000m級の険しい山岳」

- 性別**
- 性別によるイメージの違いは少なく、女性は「日常生活の場」や「癒やしの場」として、男性は「林業等の働く場」や「信仰の場」としてのイメージがやや高い傾向



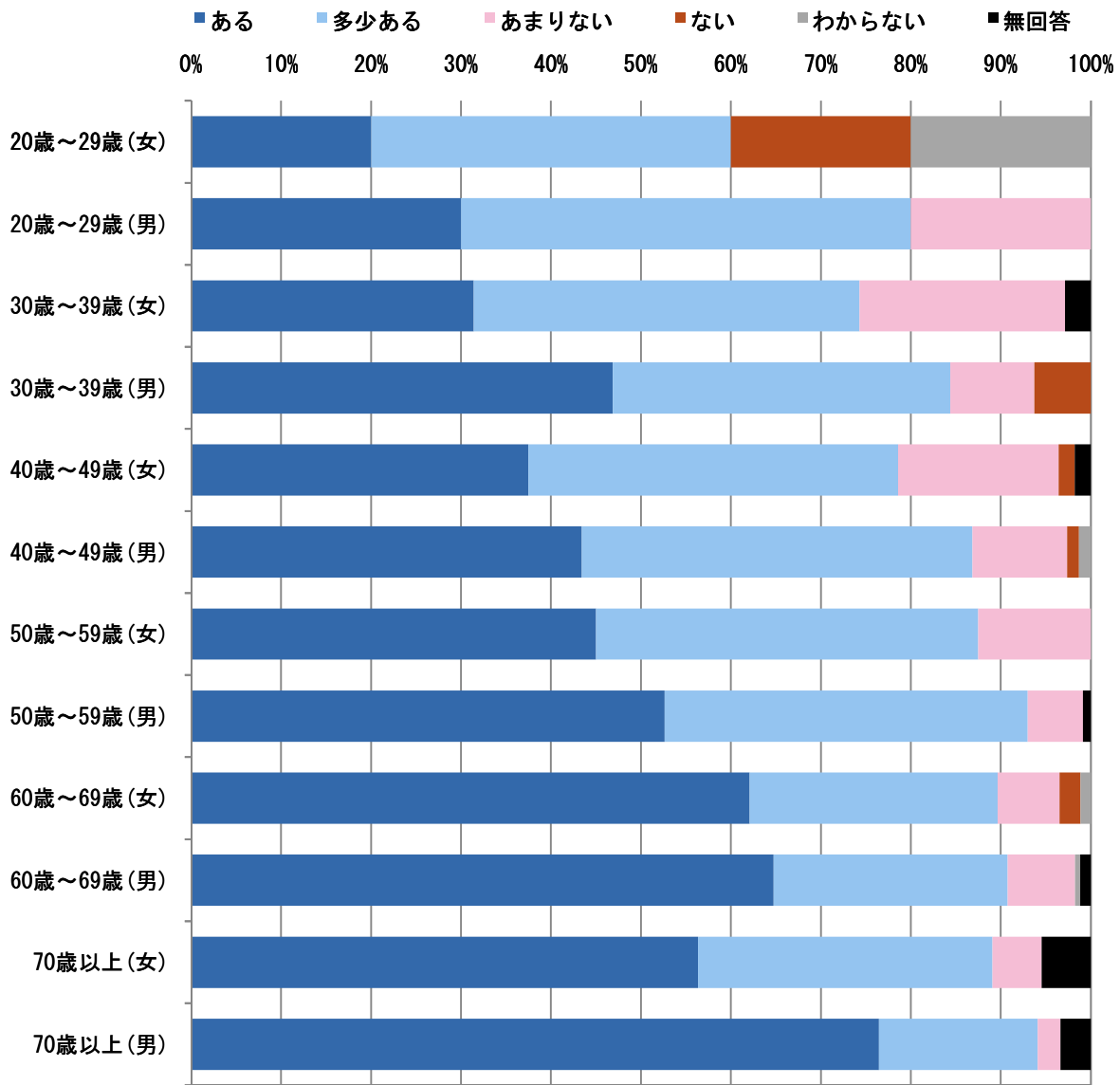
2 長野県の「山」に対する興味

全体 ○ 「興味がある」が過半数を占め、「多少ある」を加えると約9割



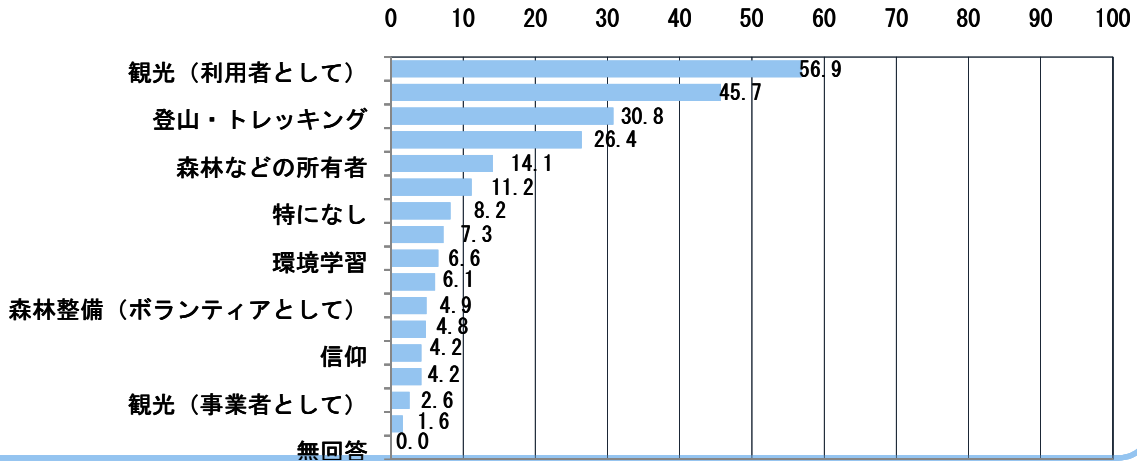
年齢
性別

○ 年齢階層毎の性別比較では、やや男性が興味が高い傾向
○ 20歳代女性の約4割は「興味がない」又は「わからない」

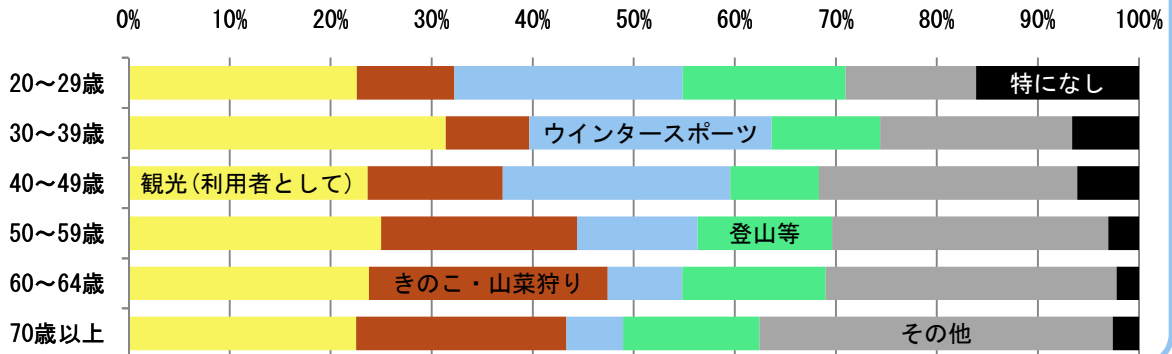


3 長野県の「山」との関わり

- 全体** ○ 「観光(利用者)」が56.9%、次いで「きのこ狩り等」、「登山等」、「ウインタースポーツ」、「森林所有者」
○ 総じて「山」と何らかの関わりがある傾向(特になし：8.2%)



- 年齢** ○ 「観光(利用者として)」の関わりが年齢階層を通じて共通
○ 「きのこ・山菜狩り」は年齢が高くなるにつれて増加、一方で「ウインタースポーツ」は減少
○ 年齢階層が高くなるにつれ、関わり方が多様化

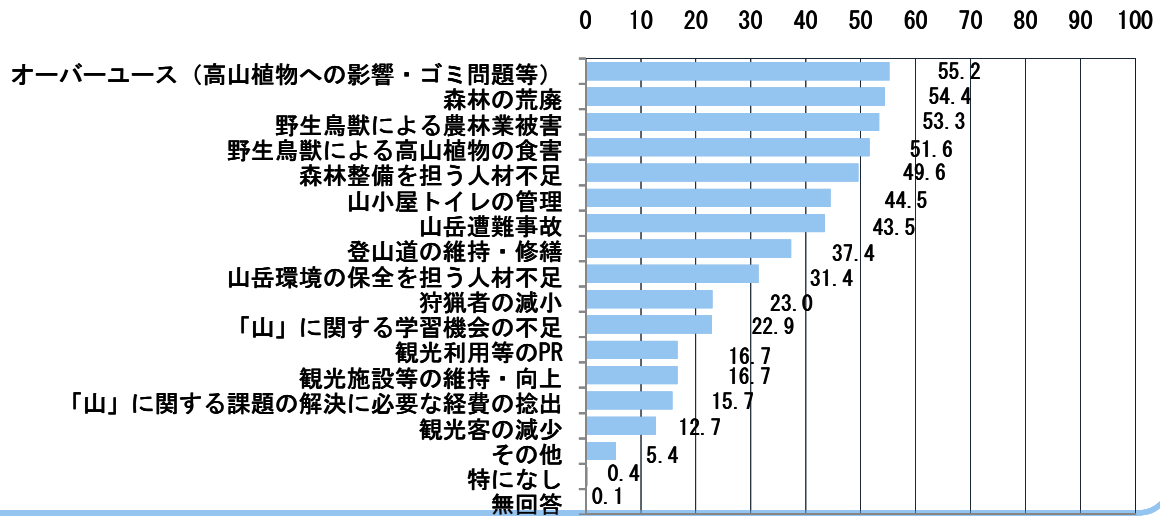


- 地域** ○ 「山岳環境保全活動」、「薪の調達」、「日常生活の場」、「信仰」、「環境学習」等の地域特性

地域	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
佐久	観光(利用)	きのこ狩り等	ウインタースポーツ	登山等	森林所有者
上小	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	ウインタースポーツ	森林所有者
諏訪	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	ウインタースポーツ	山岳環境保全活動 森林整備ボランティア
上伊那	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	森林所有者	薪の調達
飯伊	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	森林所有者	日常生活の場
木曾	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	ウインタースポーツ	日常生活の場 信仰の場
松本	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	ウインタースポーツ	環境学習
大北	きのこ狩り等	日常生活の場	ウインタースポーツ	森林所有者	観光(利用)
長野	観光(利用)	きのこ狩り等	登山等	ウインタースポーツ	森林所有者
北信	観光(利用)	きのこ狩り等	ウインタースポーツ	森林所有者	登山等

4 長野県の「山」に関する課題

全体 ○ 「オーバーユース」、「森林荒廃」、「野生鳥獣による農林業・高山植物への被害」等の多様な課題があると認識



年齢 ○ 若年層は「山岳遭難」や「オーバーユース」等の課題が大きいと認識、年齢層が高くなるにつれ、「野生鳥獣被害」や「森林の荒廃」等の課題が大きいと認識

地域	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代	山岳遭難事故	オーバーユース	野生鳥獣被害(高山植物)	登山道維持・修繕	森林整備(人材不足) 山小屋トイレ管理
30歳代	オーバーユース	山岳遭難事故	野生鳥獣被害(農林業)	森林の荒廃	野生鳥獣被害(高山植物)
40歳代	オーバーユース	野生鳥獣被害(農林業)	森林の荒廃	森林整備(人材不足)	山岳遭難事故
50歳代	森林の荒廃	オーバーユース	野生鳥獣被害(農林業)	野生鳥獣被害(高山植物)	森林整備(人材不足)
60歳代	森林の荒廃	野生鳥獣被害(農林業)	オーバーユース	野生鳥獣被害(高山植物)	森林整備(人材不足)
70歳以上	野生鳥獣被害(高山植物)	森林の荒廃	野生鳥獣被害(農林業)	オーバーユース	森林整備(人材不足)

地域 ○ 全域で「オーバーユース」、「野生鳥獣被害」、「森林の荒廃」といった課題はほぼ共通

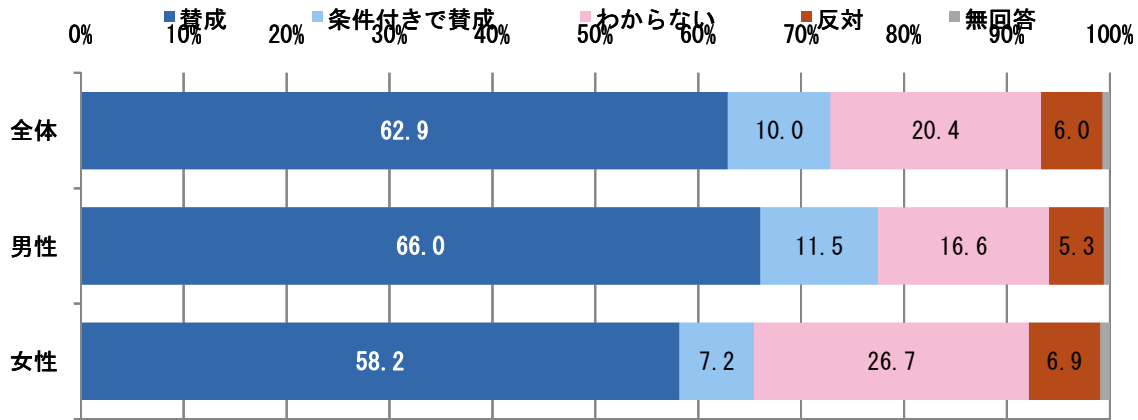
○ 「山小屋トイレの管理」も広域的に課題として認識

地域	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
佐久	オーバーユース 野生鳥獣被害(高山植物) 野生鳥獣被害(農林業)	森林の荒廃	森林整備(人材不足)	山岳遭難事故	山小屋トイレ管理
上小	森林の荒廃	オーバーユース	野生鳥獣被害(高山植物)	野生鳥獣被害(農林業)	森林整備(人材不足)
諏訪	野生鳥獣被害(高山植物)	野生鳥獣被害(農林業)	オーバーユース	森林の荒廃	森林整備(人材不足)
上伊那	森林の荒廃	野生鳥獣被害(高山植物)	オーバーユース	野生鳥獣被害(農林業)	森林整備(人材不足)
飯伊	森林の荒廃	野生鳥獣被害(農林業)	森林整備(人材不足)	野生鳥獣被害(高山植物)	オーバーユース
木曾	森林の荒廃	オーバーユース	山小屋トイレ管理	登山道の維持・修繕	学習機会不足
松本	オーバーユース	山岳遭難事故	野生鳥獣被害(高山植物)	森林の荒廃	野生鳥獣被害(農林業)
大北	野生鳥獣被害(農林業)	オーバーユース	野生鳥獣被害(高山植物)	山小屋トイレ管理	森林の荒廃
長野	森林整備(人材不足)	オーバーユース	野生鳥獣被害(農林業)	森林の荒廃	山小屋トイレ管理
北信	森林の荒廃	野生鳥獣被害(農林業)	オーバーユース	山小屋トイレ管理	野生鳥獣被害(高山植物)

5 長野県の「山の日」(仮称)の制定

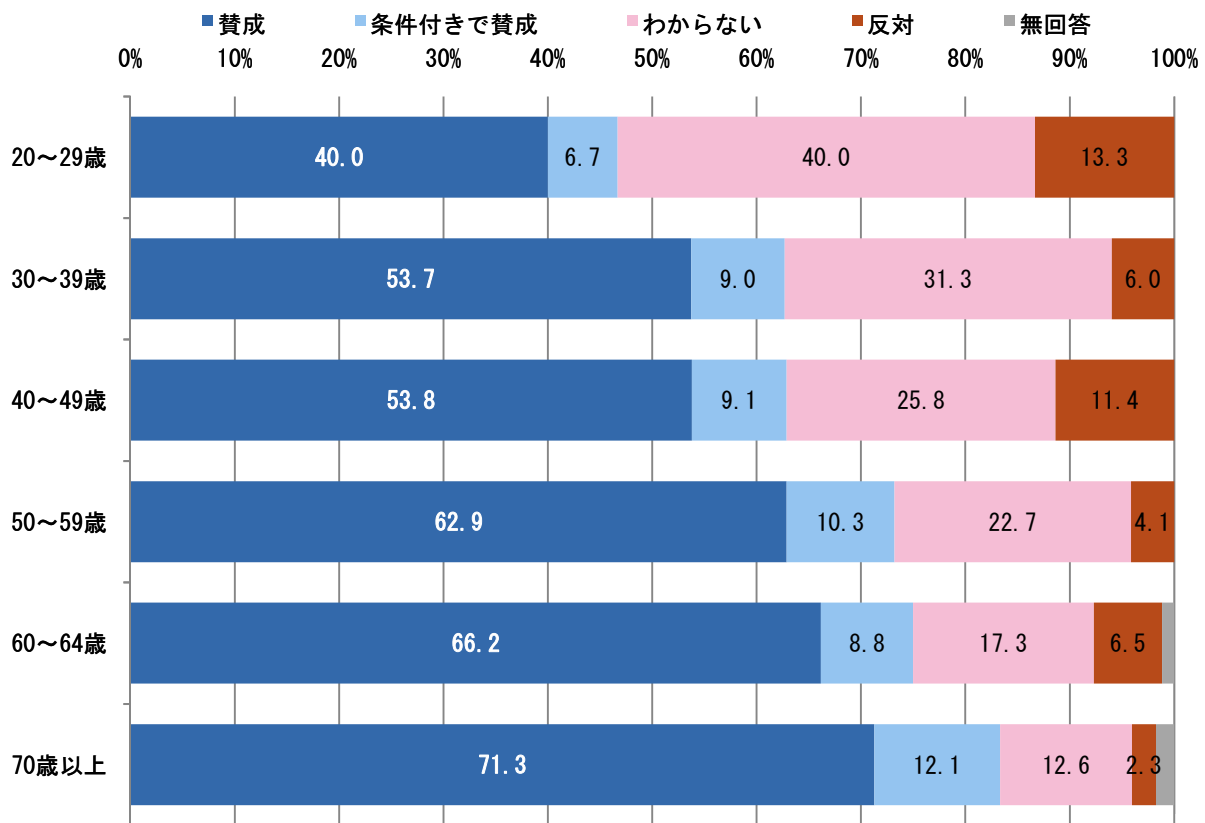
全体
性別

- 「賛成」(62.9%)と「条件付きで賛成」(10%)で約7割「条件」として「制定の目的の明確化」、「観光客誘致と山の保全を両立」等の意見
- 「わからない」という意見が全体の約2割を占め、女性の比率が高い傾向



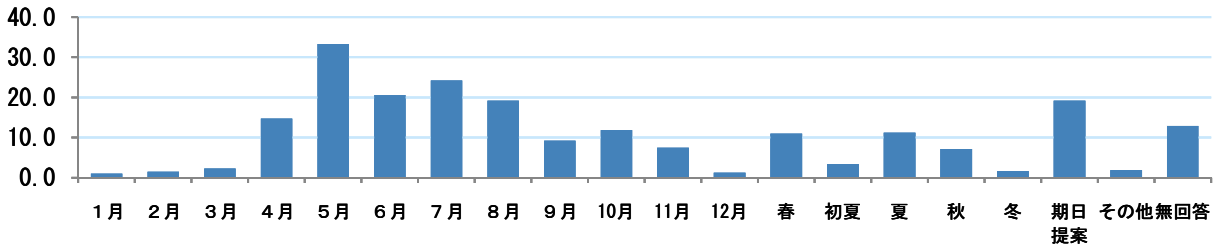
年齢

- 年齢層が高まるにつれ、「賛成」の意見が高くなる傾向
- 20歳代の40.0%が「わからない」と回答し、主な理由は「制定の理由がわからない」という意見
- 問2の「山に対する興味」と同様の傾向



6 長野県の「山の日」(仮称)の時期

全体 ○ 「5月」が33.2%で、次いで7月(24.2%)、6月(20.5%)、8月(19.1%)、4月(14.7%)と春から夏にかけて多い傾向

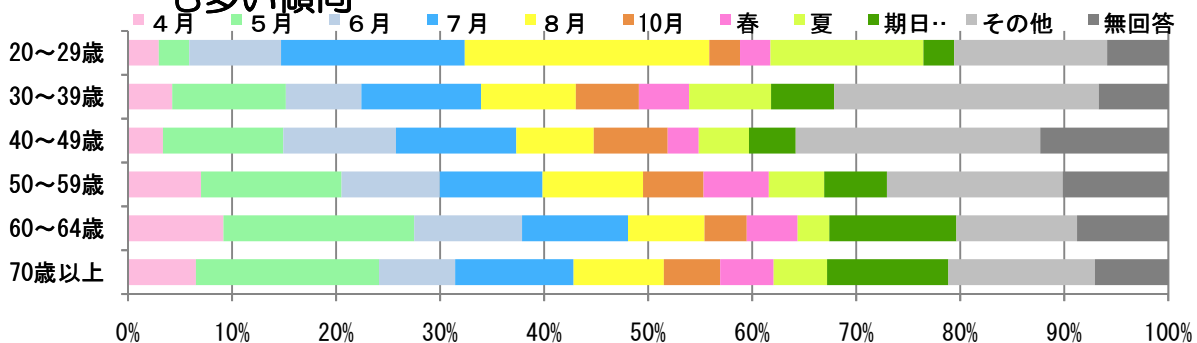


提案時期	件数	主な提案理由
4月	20	春の始まり、雪解け、ゴールデンウィーク前半の連休 等
5月	38	新緑、ゴールデンウィーク後半の連休、植樹活動、登山シーズン前の啓発 等
6月	20	山開き、深緑、祝日のない月、植樹活動 等
7月	30	山開き、夏山シーズン開始、晴天日の多い季節 等
8月	27	山岳観光シーズンの最盛期、夏休み、帰省、「八」の文字の形と山の形

期日 ○ 「新緑」、「芽吹き」、「山開き」、「夏休み」等を意識した期日を提案

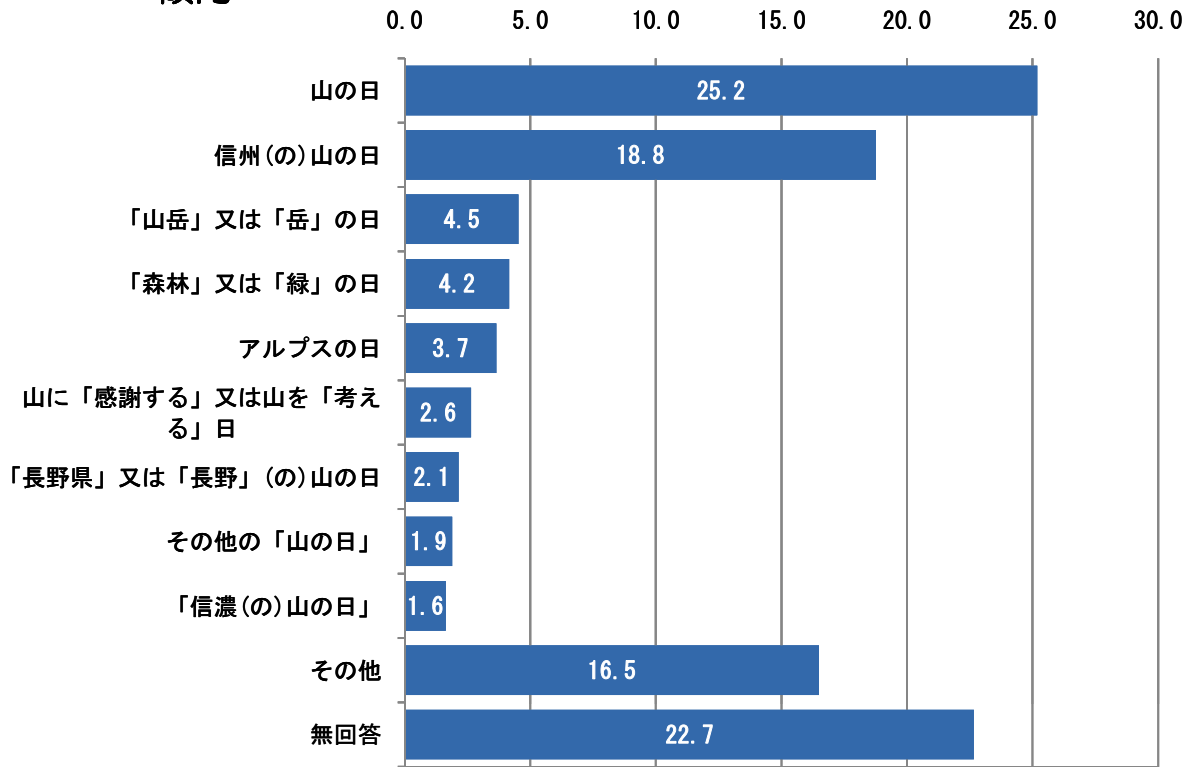
提案期日	件数	主な提案理由
7月1日	13	・多くの山開きが行われる日 ・夏山シーズンの始まり ・1年の中心日(本県が日本のほぼ中央に位置し、山も中心的な象徴) ・緑の生い茂る季節
6月1日	10	・緑の芽吹きの頃、新緑の美しい季節 ・植樹活動に最適 ・1年の真ん中の時期で野外活動が盛んになる頃
8月1日	9	・「八」の文字の形が山の形に似ていることから ・夏休み期間中にあたり、行事等への入り込みに期待 ・松本深志高等学校落雷事故
5月10日	8	・若葉のきれいな季節 ・過ごしやすい気候
5月4日	7	・みどりの日と同趣旨
8月8日	7	・「八」の文字の形が山の形に似ていることから

年齢 ○ 20歳代は「7月」、「8月」、「夏」
○ 30、40、50歳代は多様な意見が多い傾向
○ 60歳代、70歳以上は「5月」が多く、具体的な「期日提案」も多い傾向

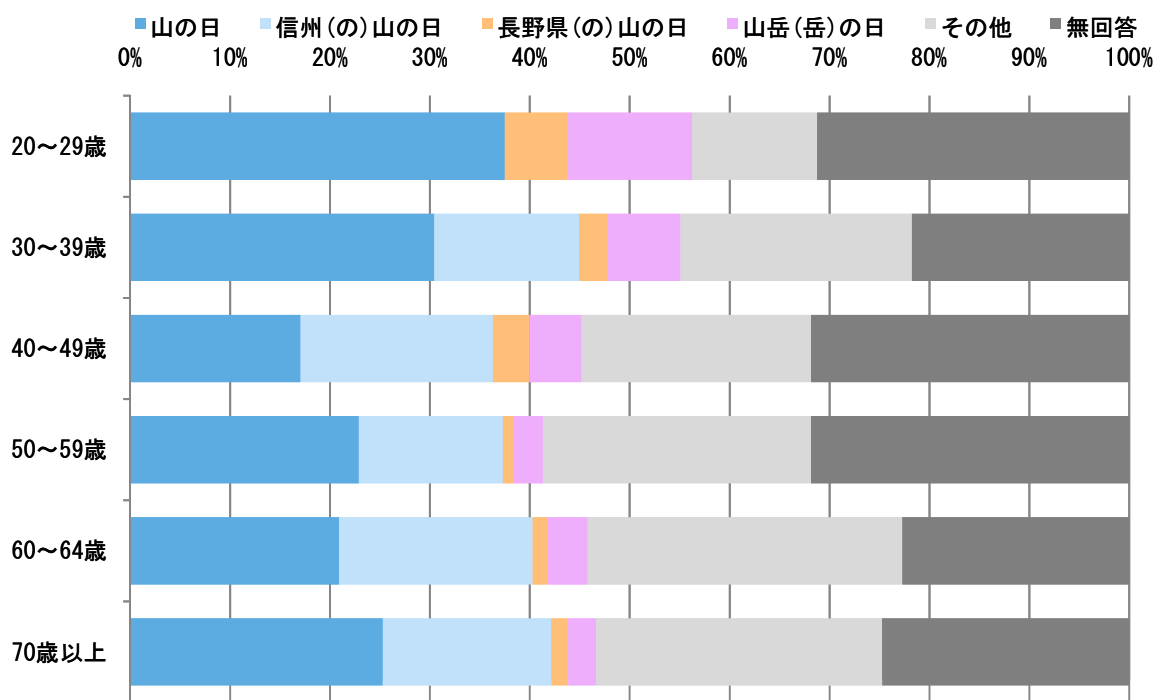


7 長野県の「山の日」(仮称)の名称

全体 ○ 「山の日」が25.2%で、次いで「信州(の)山の日」が多い傾向

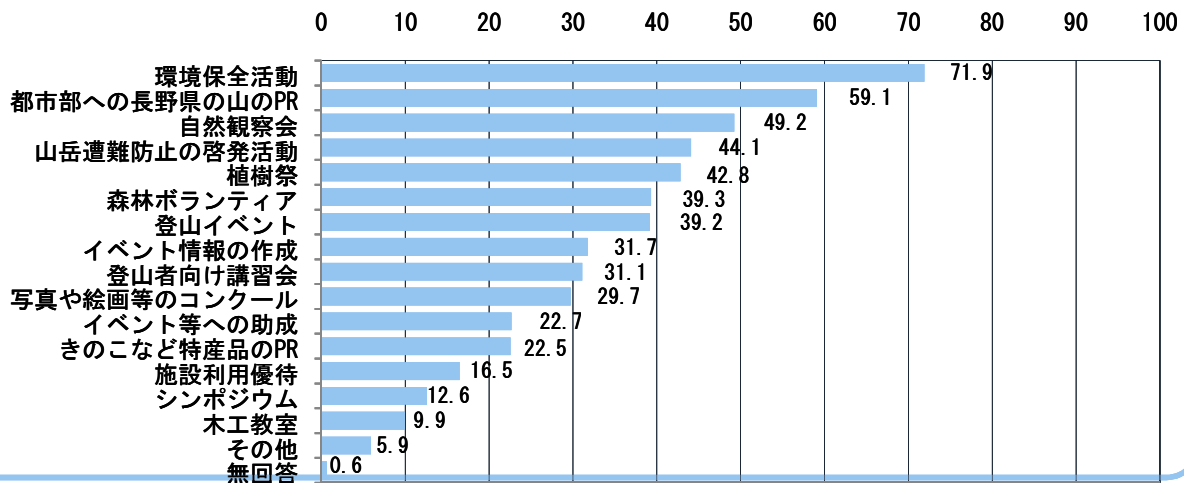


年齢 ○ 20歳代では「山の日」、「山岳(又は岳)の日」が多い傾向
○ 30歳代から70歳以上にかけて、「山の日」、「信州(の)山の日」が多い傾向

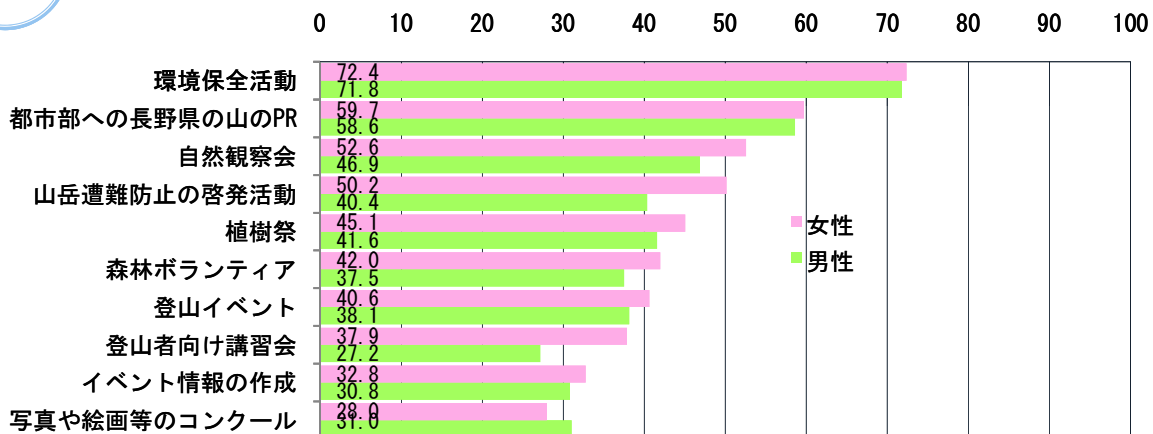


8 長野県の「山の日」(仮称)の取組

全体 ○ 「環境保全活動」が71.9%と高く、次いで「都市部への長野県の山のPR」(59.1%)、自然観察会(49.2%)



年齢 ○ ほとんどの項目で女性の数値が男性を上回る傾向



地域 ○ 「環境保全活動」と「都市部へのPR」は全ての地域で要望が大きい傾向

地域	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
佐久	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	植樹祭	登山イベント
上小	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	登山イベント	山岳遭難防止啓発
諏訪	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	植樹祭	山岳遭難防止啓発 森林ボランティア
上伊那	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	植樹祭	山岳遭難防止啓発
飯伊	環境保全活動	都市部へのPR	植樹祭	森林ボランティア	山岳遭難防止啓発
木曾	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	登山者向け講習会	植樹祭 森林ボランティア きのこ等PR
松本	環境保全活動	都市部へのPR	山岳遭難防止啓発	自然観察会	登山イベント
大北	環境保全活動	都市部へのPR	植樹祭	山岳遭難防止啓発	自然観察会 森林ボランティア 登山イベント 写真等コンクール イベント等助成
長野	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	森林ボランティア	植樹祭
北信	環境保全活動	都市部へのPR	自然観察会	山岳遭難防止啓発	森林ボランティア 写真等コンクール

長野県「山の日」懇話会提出資料
平成25年度第1回県政モニターアンケート調査結果
補足説明資料

[長野県の「山の日」(仮称)の制定に関する賛否のうち反対意見の主な理由]

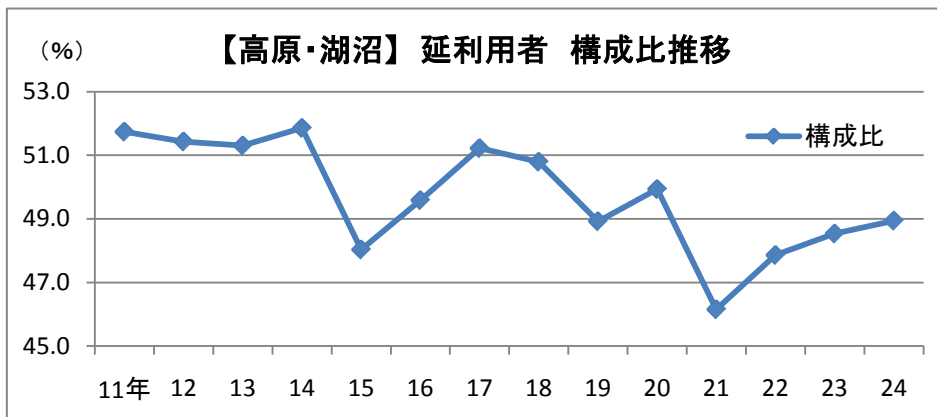
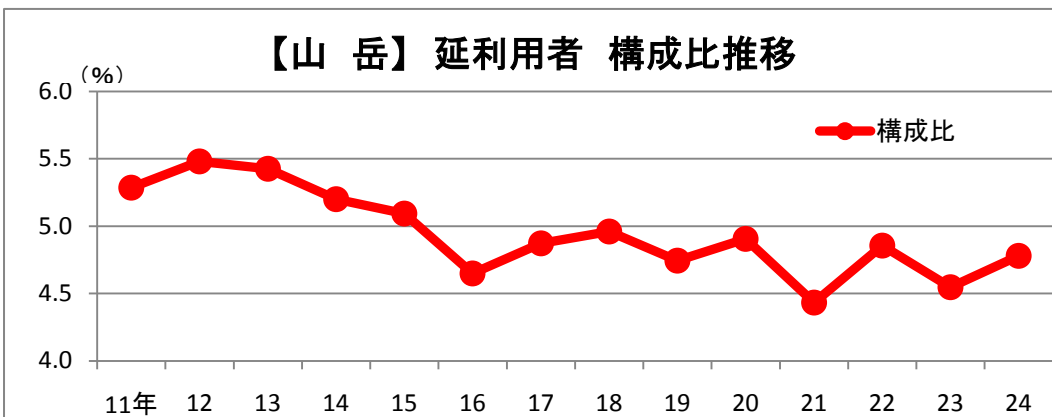
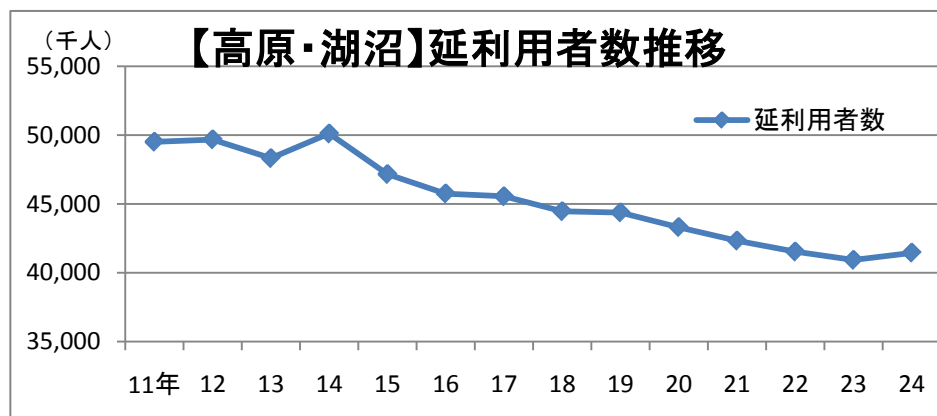
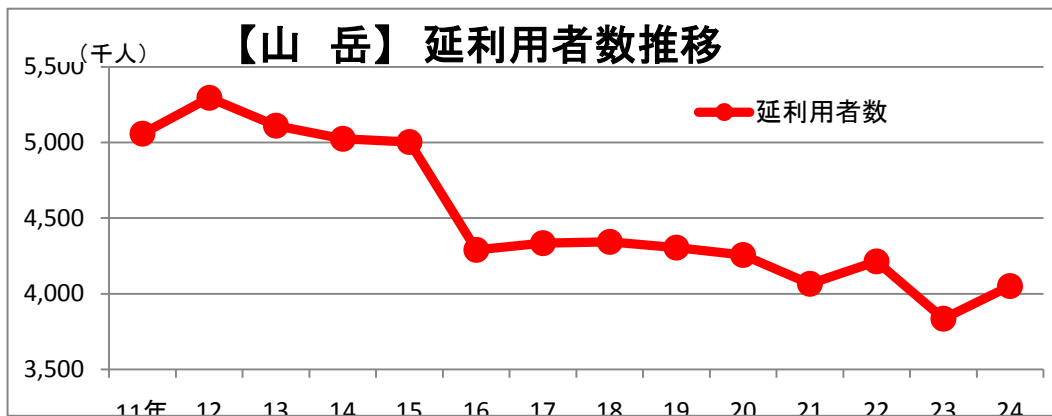
(反対意見：51件(うち理由等記載あり：20件))

- 制定する目的を明確にすべき(5)。
- 特に制定する理由(きっかけ)が見あたらない(2)。
- 単なるイベントの開催等による観光目的ではなく、県民の日常生活的な生活面から考えてほしい(2)。
- 長野県は日常的に山に接しているので必要がないと思われ、記念日を制定するにしても地元住民対象にした事業を考えるべき(2)。
- 山への入り込み者が増加することによる環境への影響が心配(2)。
- 新たな取組を行うことで行事への動員や財政的な負担が増加する(2)。
- 一日だけでなく、環境保全活動や森林整備などの取組を継続的かつ充実させていくことが必要。
- 長野県の山は四季折々の素晴らしさ等があるため、時期を特定して制定することに疑問。
- 海なし県なので、山と川をセットで対象とすべき。
- 若い世代には、特定の日を制定することの必要性や意味がよくわからない。
- よくわからない。

長野県における「山」に関するデータ

分野	項目	長野県の数値	全国順位	全国の状況	備考
気候	年平均気温	12.4℃	42位	47位北海道9.4℃	総務省
	年降水量	975mm	47位	1位静岡2,351mm	総務省
	降雪日数	68日	6位	1位北海道116日	総務省
山岳	山岳	159座	1位	全国1,003座	国土地理院
	3,000m峰	15座	1位	全国23座	国土地理院
	日本百名山	29座	1位	2位山梨・群馬11座	自然保護課ほか
	三大峠(針ノ木峠、三伏峠)		—	雁坂峠(秩父)	Wikipedia
	三大雪渓(白馬大雪渓・針ノ木大雪渓)		—	剣沢大雪渓(剣岳)	Wikipedia
	スキー場	77箇所	2位	1位北海道85箇所	YAHOOホームページ
	索道施設(リフト)	511基	—		観光企画課
自然公園	国立公園	4箇所	2位	1位北海道6箇所	自然保護課
	国定公園	3箇所	5位	1位北海道5箇所	自然保護課
	県立自然公園	6箇所	—		自然保護課
	自然公園面積	278,548ha	3位	1位北海道867,561ha	自然保護課
	自然公園面積割合	21%	13位	全国14%	自然保護課・総務省
立地	日本一海から遠い地点(佐久市)	114.853km		北緯36°10'36" 東経138°34'49"	国土地理院
	日本最高所の湖沼(御嶽山二ノ池)	標高2,905m			Wikipedia
	日本一深い積雪(栄村森宮野原駅)	785cm		S20(1945).2.14	国鉄
	日本一大きなパラボナアンテナ 臼田宇宙空間観測所(佐久市)	直径64cm			Wikipedia
	日本一高地にある水族館 蓼科アミューズメント水族館(茅野市)	標高1,750m			Wikipedia
	植物	植物(維管束)	3,257種		約7,000種
指定希少野生動植物(うち特別指定希少野生動植物):維管束植物		52(14)			自然保護課
動物	動物(脊椎動物)	417種			長野県版レッドデータブック
	指定希少野生動植物(うち特別指定希少野生動植物):脊椎動物	9(2)			自然保護課
	指定希少野生動植物(うち特別指定希少野生動植物):無脊椎動物	11(3)			自然保護課
森林	木本	601種			長野県植物誌1997
	三大美林	木曾ヒノキ	—	秋田スギ、青森ヒバ	Wikipedia
	森林面積	1,059,688ha	3位		長野県民有林の現況ほか
	森林率	78%	3位		長野県民有林の現況ほか
	保安林	569,601ha			森林づくり推進課
	水源涵養保安林	414,080ha			森林づくり推進課
	土砂流出防備保安林	147,220ha			森林づくり推進課
	森林セラピー基地・ロード	9箇所	1位	全国48箇所	NPO法人森林セラピートサエティ
特用林産物	山菜	1,179t			信州の木振興課
	栽培きのこ	150,911t	1位		信州の木振興課・農林水産省
	野生きのこ(まつたけ)	85.1t	1位	全国139.8t	信州の木振興課・農林水産省
	野生きのこ(くりたけ)	4.5t	2位		信州の木振興課・農林水産省
	木炭	1120.8t	9位	1位岩手4132.2t	信州の木振興課・農林水産省
	薪	7,636m ³ (層積m ³)	4位	1位宮城31,920m ³	信州の木振興課・農林水産省
	わさび	1,086t	2位	1位静岡1134t	信州の木振興課・農林水産省
農業	夏秋レタス収穫量	157,200t	1位	全国254,600t	農林水産省
	そば収穫量	2,400t	4位	1位北海道11,400t	農林水産省
	みそ生産量	197,093t	1位	2位愛知43,718t	農林水産省
水源	水道水源地	1,714箇所			水大気環境課
河川	一級河川延長	5,070.4km	2位	1位北海道10,175.6km	国土交通省
	一級河川水系の数	8水系	2位	1位北海道13水系	国土交通省
	三大河川	信濃川	—	利根川、石狩川	Wikipedia
	県管理ダムの数	16ダム			河川課
温泉	温泉	230箇所	2位	1位北海道263箇所	環境省
	温泉施設数	2,098施設	2位	1位静岡2,404施設	環境省
	三御湯	別所温泉・野沢温泉	—	秋保温泉(宮城県)	Wikipedia:第84代順徳天皇の選出
文化財等	三大奇祭	御柱祭	—	なまはげ(秋田)、吉田の火祭り(山梨)	Wikipedia
	国宝	7件		全国1,085件	文化財・生涯学習課・文化庁
	重要文化財	173件		全国12,867件	文化財・生涯学習課・文化庁
	重要有形民俗文化財	7件		全国212件	文化財・生涯学習課・文化庁
	重要無形民俗文化財	8件		全国278件	文化財・生涯学習課・文化庁
	特別名勝	1件(上高地)		全国30件	文化財・生涯学習課・文化庁
	特別天然記念物	1件		全国72件	文化財・生涯学習課・文化庁
	天然記念物	21件		全国957件	文化財・生涯学習課・文化庁
	名勝	5件		全国333件	文化財・生涯学習課・文化庁
	国登録有形文化財	413件		全国8,987件	文化財・生涯学習課・文化庁

観光地分類「山岳」及び「高原・湖沼」の延利用者数及び全分類に占める構成比の推移



(単位:千人、%)

		11年	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
延利用者数		95,708	96,626	94,198	96,646	98,214	92,294	88,945	87,555	90,734	86,753	91,743	86,798	84,349	84,722
対前年比		—	1.0	△ 2.5	2.6	1.6	△ 6.0	△ 3.6	△ 1.6	3.6	△ 4.4	5.8	△ 5.4	△ 2.8	0.4
山 岳	延利用者数	5,059	5,296	5,112	5,025	5,003	4,291	4,334	4,343	4,305	4,256	4,066	4,215	3,835	4,050
	構成比	5.3	5.5	5.4	5.2	5.1	4.6	4.9	5.0	4.7	4.9	4.4	4.9	4.5	4.8
	対前年比	—	3.7	△ 1.0	△ 4.2	△ 2.0	△ 8.7	4.8	1.8	△ 4.3	3.4	△ 9.7	9.6	△ 6.4	5.1
高 原 湖 沼	延利用者数	49,519	49,695	48,328	50,118	47,173	45,764	45,559	44,472	44,388	43,319	42,338	41,540	40,937	41,462
	構成比	51.7	51.4	51.3	51.9	48.0	49.6	51.2	50.8	48.9	49.9	46.1	47.9	48.5	48.9
	対前年比	—	△ 0.6	△ 0.2	1.1	△ 7.4	3.2	3.3	△ 0.8	△ 3.7	2.1	△ 7.6	3.7	1.4	0.8

出典:長野県観光地利用者統計(長野県観光部)

山小屋トイレの現状

長野県環境部自然保護課

1 現況

- ・ 若者中心の登山から、中高年登山、山ガール、ツアー登山などの幅広い登山者層に変化。
- ・ 特定の時期や山域への登山者が集中。
- ・ 山岳環境への影響の軽減や多様な登山者の要求への対応が必要。

《登山者数の推移》

(単位：千人)

S53	H10	H15	H20	H21	H22	H23
1,137	586	624	585	521	596	638

《県内の山小屋トイレの改修率》

総数	H24年度末(見込み)	H24末改修率	目標とする改修率*
160箇所	120箇所	75%	H32までに85%

* 目標は生物多様性ながの県戦略による。

2 課題

(1) 厳しい立地条件により、建設、維持管理等大きな費用がかかるため、整備がなかなか進まない。

- ・ **建設費** : 平均 3,700 万円 (H11～H22 年度 国補助金箇所の平均)
- ・ **維持管理費** : バキューム搬出 約 50 万円/年 ～ ヘリ搬出 約 300 万円/年
- ・ **利用料等** : 北アルプス南部、御嶽山等の山域で利用料として 100 円、その他の北アルプス、八ヶ岳の山域ではチップを徴収し維持管理に充てているが、充当率は 20～50%程度

(2) 補助金の経緯

H22. 6 環境省行政事業レビュー(省庁版事業仕分け)で、山小屋トイレの補助事業「山岳環境保全施設等整備事業」が廃止となる。

県、県会等が、補助事業の継続を環境省に要望。

H23 環境省で新たな補助事業「山岳環境保全対策支援事業」を創設。

H23. 11 行政刷新会議において「見直し余地がある」と指摘を受け、予算を減額(1.5 億円→1.05 億円)し、対象事業を絞り込み(緊急避難施設、再生可能エネルギー発生施設の廃止)。

3 山岳環境保全対策支援事業(国直接補助)

- (1) 事業主体：山小屋事業者(民間のみ)
- (2) 対象事業：し尿処理施設、給水施設
- (3) 補助率：1/2(事業費等に対する制限なし)
- (6) H24 実績見込みと H25 計画

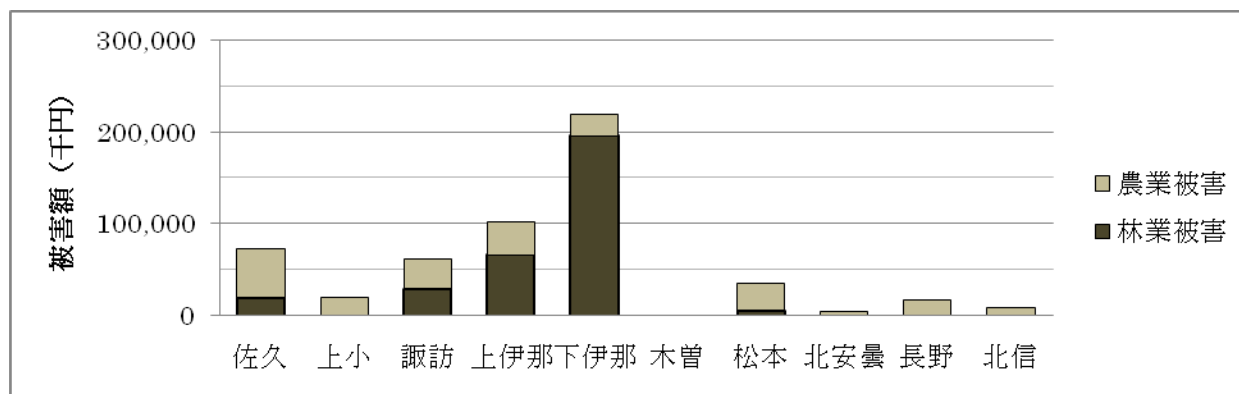
	事業費(千円)	補助金(千円)	備考
H24 実績	101,080	50,540	御嶽山 女人堂、王滝頂上山荘、 北アルプス 岳沢小屋、ヒュッテ大槍
H25 計画	96,000	48,000	御嶽山 剣ヶ峰山荘、 中央アルプス 天狗荘、

長野県内におけるニホンジカ被害の現状と対策について

長野県林務部野生鳥獣対策室

1 農林業被害

平成23年度における農業、林業を合わせた被害額は5億3千万円で、地域別では林業被害の多い下伊那で2億を超え、県下全体の4割を超える被害が発生している。



(1) 農業被害

- 被害額2億2千万円のうち作物別では野菜のみで5割近くを占め、これに稲、果樹を加えると9割近くとなる。
- 地域別では佐久、上伊那、諏訪の順で、この3地域で約6割を占めている。

(2) 林業被害

- 被害額3億1千万円のほとんどは剥皮被害であり、下伊那地域が全体の6割を越え、上伊那、諏訪がこれに続き、伊那谷で大きな被害が発生している。
- 剥皮が幹の全周に及ぶと枯死するため、疎林となっている林分がある。

参考資料 1

2 高山植物等の被害

- 南アルプスや八ヶ岳では、高山植物のお花畑がニホンジカの食害を受けて消滅し、イネ科草本やマルバタケブキ等の群落に変化している箇所が多数ある。
- 霧ヶ峰高原や美ヶ原高原でニッコウキスゲの花茎が食害を受けている。

参考資料 2

3 交通関係被害

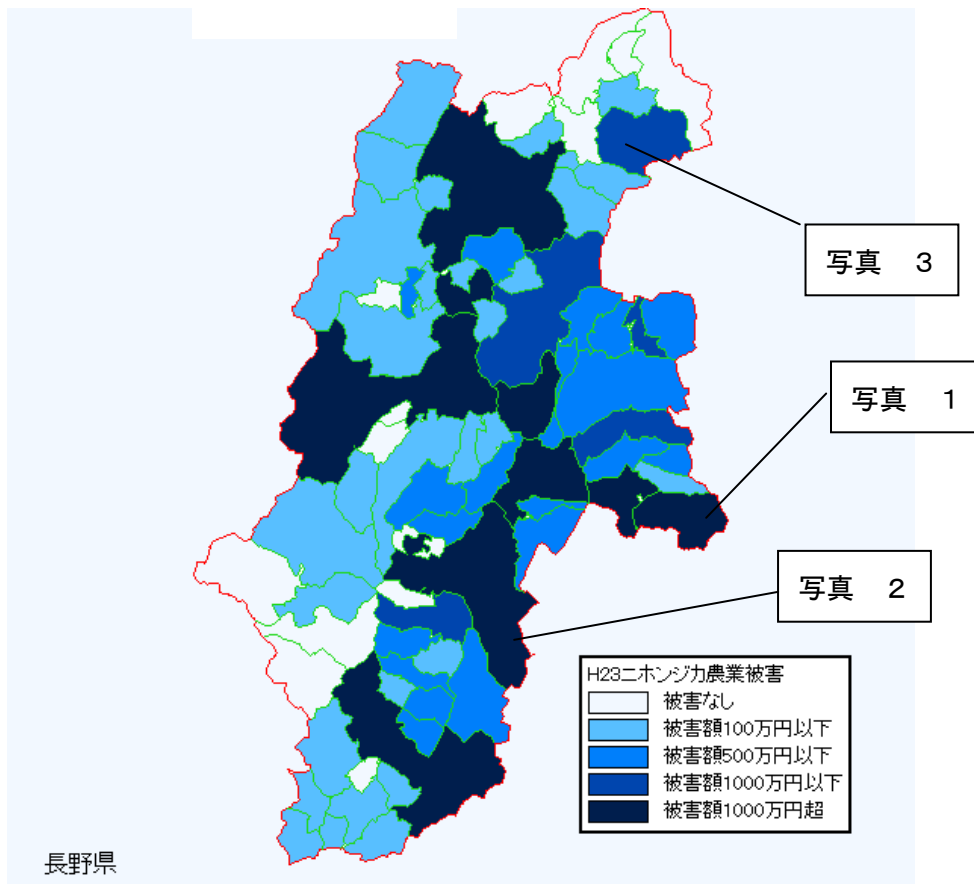
平成23年度における車両事故(目撃を含む)は、485件発生している。

参考資料 3

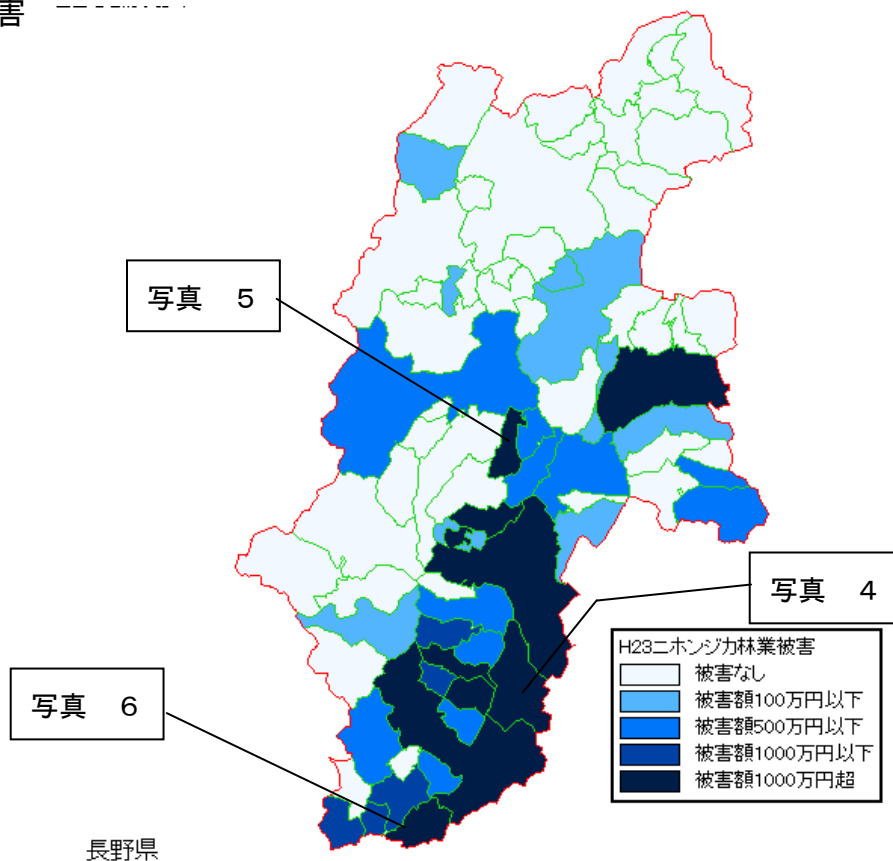
地方事務所	一般道路	高速道路	鉄道	計	
佐久管内	101	8	121	230	一般道路「市町村道、県道、国道」 240件(佐久市40件、南牧村42件、富士見町27件)
上小管内	34	1		35	
諏訪管内	55	4	24	83	高速道路 39件(佐久市7件、中野市7件、筑北村6件)
上伊那管内	21	1	4	26	
下伊那管内	8		19	27	鉄道 206件(南牧村80件、富士見町18件、小諸市15件)
木曾管内			6	6	
松本管内	16	11	14	41	
北安曇管内	4		6	10	
長野管内		7	4	11	
北信管内	1	7	8	16	
計	240	39	206	485	

平成 23 年度 市町村別のニホンジカ農林業被害の状況







1 農業被害



2 林業被害



農林業被害の状況

			
1	レタスの食害 (川上村)	2	水稲の食害 (伊那市)
			
3	リンゴの剥皮被害 (木島平村)	4	カラマツの剥皮被害 (大鹿村)
			
5	カラマツの剥皮被害 (岡谷市)	6	ヒノキの剥皮被害 (天龍村)



南アルプス仙丈ヶ岳 馬の背付近

1

左は年代不明だが高茎草本に覆われたお花畑であったが、現在（右）はイネ科草本等の草原となっている。

（写真提供：上伊那教育会）



八ヶ岳 麦草ヒュッテ付近

2

左は 10 年前でヤナギラン等の高茎草本の群落であったが、現在（右）はイネ科草本やツクバトリカブトの草原となっている。

（島立正広氏撮影：中部森林管理局報告書）



ニホンジカの侵入を防ぐ電気柵



3

霧ヶ峰高原

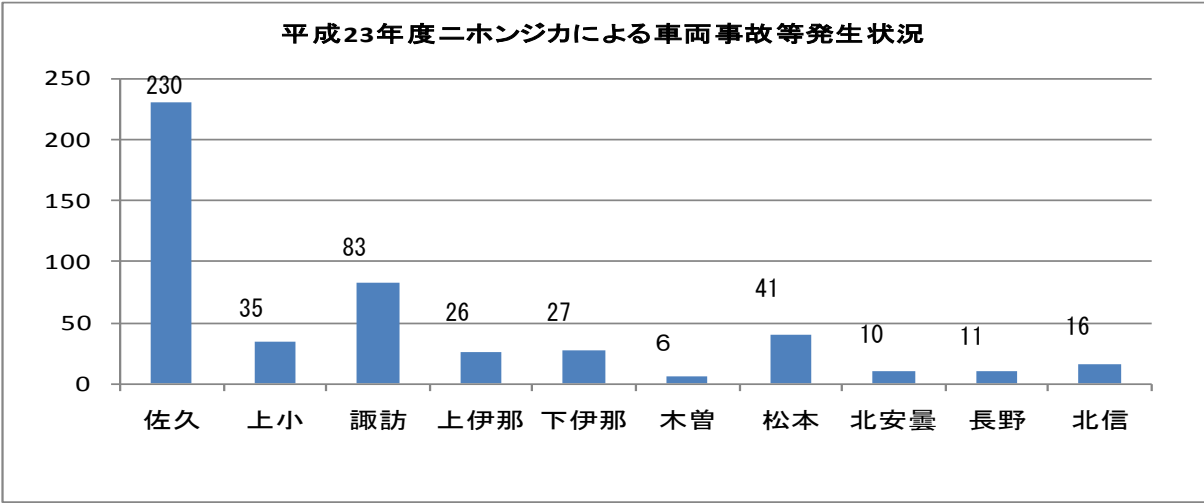
左は食害を受けたニッコウキスゲ。右は侵入防止柵設置後復活した状況。

交通関係被害について

ニホンジカによる車両事故（車道、鉄道）が深刻化していることから、平成 23 年度の車両事故等の発生状況を調査分析し、被害対策に反映させる。

1 調査方法

一般道路（市町村道、県道、国道）、高速道路、鉄道の管理者から車両事故発生状況を聞き取りました。なお、高速道路及び鉄道については、車両との接触がなくても、施設で目撃された件数も含まれているので、件数と事故によるへい死個体と一致しない。



2 調査結果

※県下で 485 件の車両事故等が発生している。主な車両事故等発生状況は以下のとおり。

(1) 小海線での事故

関東山地と八ヶ岳個体群の境界である小海線で 100 件と最も多く、その内 80 件が南牧村で発生していることから、隣接する山梨県からの移動及び個体群間の移動が考えられる。

(2) 佐久管内の国道 254 号線での事故

国道 254 号線の群馬県境から内山相立地籍までの間で 24 件（佐久市の 46 件の約 5 割）が発生していることから、群馬県からの移動及び浅間山山麓への移動が考えられる。

(3) 諏訪管内の事故

富士見町で 49 件、茅野市で 31 件が発生している。JR 中央線の信濃境・富士見間での事故が多く、隣接する山梨県からの移動が考えられる。

また、茅野市から富士見町に至る県道富士見原茅野線での事故が多いことから、関東山地からの移動が考えられる。

(4) 松本管内の事故

JR 篠ノ井線の松本市（平瀬）から麻績村（聖高原）までの間で 8 件、中央道（高速道路）の麻績村（坂北・聖高原間）で 11 件の計 19 件（松本管内の約 5 割）が発生していることから、北アルプス方面（西山方向）への移動が考えられる。

登山学習・スキー教室の実施状況

長野県教育委員会事務局 スポーツ課

○ 小学校

	学校数	登山学習		スキー教室	
		実施校数	実施率	実施校数	実施率
平成24年度	374	81	21.7%	360	96.3%
23	382	60	15.8%	362	94.8%
22	383	94	24.5%	363	94.8%
21	386	78	20.2%	363	94.0%
20	386	74	19.2%	364	94.3%
5年間の平均			20.3%		94.8%

* 体育教科としてのスキー実施含む

○ 中学校

	学校数	登山学習		スキー教室	
		実施校数	実施率	実施校数	実施率
平成24年度	186	160	86.0%	32	17.2%
23	187	170	90.9%	32	17.1%
22	189	177	93.7%	31	16.4%
21	192	180	93.8%	33	17.2%
20	193	181	93.4%	38	19.7%
5年間の平均			91.6%		17.5%

* 保健体育教科としてのスキー実施含む

○ 高等学校

	学校数 (課程数)	登山学習		スキー教室	
		実施校数	実施率	実施校数	実施率
平成24年度	106	4	3.8%	20	18.9%
23	106	3	2.8%	19	17.9%
22	106	4	3.8%	20	18.9%
21	106	5	4.7%	21	19.8%
20	118	4	3.4%	30	25.4%
5年間の平均			3.7%		20.2%

「山」・「森林」に関する行事等

1 山開き（開山祭）

（1）概要

「登山道」のある山の積雪期が終了した後、一般の登山客を迎えるにあたり、登山の安全祈願（登拝祭）等を目的に行われるもの。

（2）県内の主な「山開き」（開山祭）

・本県では、4月下旬から6月に集中して各地で開山祭が行われている。

4月25日	美ヶ原開山祭(松本市(美ヶ原観光連盟)) 美ヶ原高原開山祭(上田市(旧武石村)産業観光課)
4月27日	上高地開山祭(上高地観光旅館組合(実行委員会))
4月29日	恵那山山開き(岐阜県と共同)(阿智村観光協会)
4月29日	奥裾花自然園開山祭(長野市、鬼無里観光振興会)
5月3日	虫倉山開山祭(長野市、虫倉山開山祭実行委員会(旧中条村))
5月上旬	浅間山山開き(小諸市観光課)
5月12日	戸隠山開山祭(戸隠観光協会)
5月下旬	乗鞍高原開山祭(乗鞍高原温泉旅館組合(実行委員会))
5月下旬	霧ヶ峰開山祭(諏訪観光協会他)
5月最終土曜日	白馬連峰開山祭(白馬岳貞逸祭)(白馬村観光局)
6月第1土曜日	入笠山開山祭(富士見町産業課)
6月第1土曜日	車山高原夏山開山祭(車山高原観光協会)
6月第1日曜日	針ノ木岳慎太郎祭(大町市観光協会)
6月第1日曜日	八ヶ岳開山祭(茅野市観光課)
6月第1日曜日	岩菅山開山祭(山ノ内町観光商工課)
7月1日	御嶽山王滝口開山祭(王滝村)
7月20日	雨飾山開山祭(小谷村)

（3）県外の状況

・全国各地で開山祭は行われているが、雪解けの早い西日本では3月から始まる。

3月上旬	若草山開山祭(奈良県)
4月第2土曜日	韓国岳開山祭(宮崎県)
4月	阿蘇外輪山菊池溪谷開山祭(熊本県)
5月上旬	カムイヌプリ開山祭(北海道)
5月下旬	南アルプス開山祭(山梨県)
7月第1日曜日	富士山開山祭(静岡県)

2 その他

- ・御柱祭(諏訪市他) 7年に1度4月～6月にかけて神事
- ・漆器祭(塩尻市) 毎年6月
- ・森林公園祭 4月29日に市町村所管の森林公園で開催(苗木頒布等)
- ・もみじ祭 各地の景勝地で紅葉の季節に開催

全国の月間・週間

月	月 間	週 間
1月		15日～21日 防災とボランティア週間
2月	省エネルギー月間	
3月		1日～7日 春季全国火災予防運動 1日～7日 全国山火事予防運動
4月	河川美化月間 みどりの月間(4月15日～5月14日)	23日～29日 みどりの週間 29日～5月5日 ゴールデンウィーク
5月	水防月間	10日～16日 愛鳥週間 15日～21日 総合治水推進週間 24日～6月6日(14日間) 建設産業構造改善推進週間 30日～6月5日 ごみ減量・リサイクル推進週間
6月	まちづくり月間 環境月間 食育月間 土砂災害防止月間	1日～7日 水道週間 1日～7日 がけ崩れ防災週間 5日～11日 海洋環境保全推進週間(6月期)
7月	海の月間 河川愛護月間 海岸愛護月間 林材業労働災害防止強化月間 山岳遭難の防止(～8月31日) 夏の省エネキャンペーン(～9月30日)	16日～31日(16日間) 全国海難防止強調運動 21日～31日(10日間) 森と湖に親しむ旬間
8月	食品衛生月間 道路ふれあい月間	1日～7日 観光週間(2009年6月廃止) 1日～7日 スター・ウィーク～星空に親しむ週間～ 1日～7日 水の週間 25日～31日 道路防災週間 30日～9月5日 防災週間
9月	健康増進普及月間 オゾン層保護対策推進月間 緑の募金(秋)(～10月31日)	4日～10日 救急医療週間 20日～26日 動物愛護週間 20日～30日(11日間) 空の旬間 24日～10月1日 環境衛生週間
10月	体力づくり強化月間 健康強調月間 3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進月間 土地の日・土地月間 全国・自然歩道を歩こう月間 木づかい推進月間 間伐推進強化月間(～11月30日)	1日～7日 全国労働衛生週間
11月	ゆとり創造月間 新規就農啓発強化月間 JAS普及推進月間 伝統的工芸品月間	1日～7日 教育・文化週間 1日～7日 文化財保護強調週間 1日～7日 海洋環境保全推進週間(11月期)
12月	大気汚染防止推進月間 地球温暖化防止月間 冬の省エネキャンペーン(～3月31日)	1日～7日 雪崩防災週間

山や森林等に関する全国的な記念日・期間

名称	月 日	制定年月日等	実 施	内 容
全国山火事予防運動	3月1日～3月7日		消防庁、林野庁	春は入山者が増加し、空気の乾燥、季節風、フェーン現象などの気象条件により山火事が発生しやすい時期にあたることから、山火事予防、森林保全、地域安全の啓発
農山漁村女性の日	3月10日	昭和62年	農林水産省	農山漁村女性の役割を正しく認識し、適正な評価への気運を高め、女性の能力の一層の活用を促進
みどりの月間	4月15日～5月14日	平成18年8月8日（閣議決定）		緑の日への関心と理解を深め、緑化などに関する国民の造詣を深めるため。国公立公園の無料開放や、みどりの式典等のイベント開催
みどりの日	5月4日	昭和64年	緑化推進連絡会議（環境省、林野庁、国交省他関係省庁）	自然にしたしむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心を育む
山地災害防止キャンペーン	5月下旬～6月下旬	平成8年度（年度ごとに設定）	林野庁、地方公共団体	林野庁、都道府県及び市町村が実施主体となり、地域住民の防災意識の高揚に資することを目的とし、危険箇所の周知や山地防災パトロールなど山地災害を未然に防止するための取り組みを実施。
自然に親しむ運動	7月21日～8月20日	昭和34年	環境省、地方自治体	全国の自然公園、景勝地、休養地及び身近な自然地域において、自然に親しむための各種行事を実施。
森と湖に親しむ旬間	7月21日～7月31日	昭和62年	国交省、林野庁	全国行事「全国森と湖に親しむつどい」が開催され、また全国行事の一環として「森と湖のある風景画コンクール」などが実施されるほか、全国各地の200を超えるダムで様々な行事が実施される
水の日	8月1日	1977年5月（閣議決定）	国交省、関係府省、地方公共団体、ほか関連団体	年間を通じて水の使用量が多い8月上旬、水資源の有効性、水の木調査などについて国民の関心を高め、理解を深める目的。8/1-7は「水の週間」。
木づかい推進月間	10月	平成17年4月（閣議決定）	林野庁	京都議定書の目標達成のため、地域材需要拡大・森林整備の促進を図るため実施している「木づかい運動」を、集中的に活動する月間。
間伐推進強化月間	10月1日～11月30日	平成13年	林野庁	間伐の普及啓発活動、日本で間伐材の利用推進活動を実施するための啓発運動期間。2001年から林野庁が実施。
登山の日	10月3日	平成3年	社団法人日本アルパイン・ガイド協会	「10（と）3（ざん）」の語呂合わせ。日本アルパインガイド協会が平成3年に制定し、日本記念日協会が平成7年に認定。
木の日	10月8日	昭和52年	林野庁、木材青壮年団体連合会ほか	木造住宅や木の良さを見直すため、木材青壮年団体連合会などが提唱。「木」の字（十に八）にちなんで制定。

長野県における「日」「週間」「月間」の設定状況

区分	名称	時期	制定理由等	取組主体	主な取組内容	開始年	制定根拠
県	振り込め詐欺検挙強化月間	2月1日～28日	H23に振り込め詐欺の発生件数、被害額が増加したことに 対し、H25から実施	警察本部捜査第二課	普及啓発、情報収集、 積極的な声掛け	H24	本部長通知
	有害環境浄化活動強化月間	2月1日～28日	県民総ぐるみの運動として「青少年に有害な社会環境排 除県民運動」の強化	長野県子ども・若者育成支援推進本 部(企画部、教育委員会、県警)等	会議、普及啓発		要綱 (昭和53年4月制定)
	春の農作業安全運動月間	5月1日～31日	農業機械の利用が多くなる春に、農作業の安全に対する 意識の高揚及び農作業事故防止の徹底	農政部農村振興課	対策の推進、普及啓 発、講習会		
	健康長寿ながの食育強化 キャンペーン強化月間	6月1日～30日	健康長寿ながのの実現をめざし、食育に関する強化キャン ペーンを実施し、広く県民への普及啓発	健康福祉部健康長寿課	普及啓発、講習会		要領
	人権について考える強調月 間	7月1日～31日	全ての人互いに支えあいながら共に生きる「人権が尊 重される長野県」へ向けた取組	企画部人権・男女共同参画課	イベント、展示、チラ シ配布		
	有害環境浄化活動強化月間 (再掲)	7月1日～31日	県民総ぐるみの運動として「青少年に有害な社会環境排 除県民運動」の強化	長野県子ども・若者育成支援推進本 部(企画部、教育委員会、県警)等	会議、普及啓発		要綱 (昭和53年4月制定)
	暴走族追放強化期間	5月1日～6 月30日	この時期に活発化する暴走行為や暴走族への加入を防止 し離脱を支援	長野県暴走族追放県民会議(事務 局：企画部生活文化課)	普及啓発、取り締まり		
	振り込め詐欺対策総合対策 月間	6月1日～30日	H23に振り込め詐欺の発生件数、被害額が増加したことに 対し、H25から実施	警察本部捜査第二課	普及啓発、情報収集、 積極的な声掛け	H24	本部長通知
	健康長寿ながの食育強化 キャンペーン強化月間(再 掲)	9月1日～16日	健康長寿ながのの実現をめざし、食育に関する強化キャン ペーンを実施し、広く県民への普及啓発	健康福祉部健康長寿課	普及啓発、食育キャラ バン隊の派遣、講習会		実施要領
	遊休農地解消月間	9月1日～30日	関係団体と協力して、遊休農地解消に向けた気運の醸成	農政部農村整備課ほか	シンポジウム、パト ロール、プラン作成		
	秋の農作業安全運動月間	9月15日～ 10月14日	秋の農繁期に、農作業の安全に対する意識の高揚及び農 作業事故防止の徹底	農政部農村振興課	農作業安全対策の推 進、講習会等		
	きのこ中毒予防月間	9月20日～ 10月19日	きのこ中毒予防のための事業を実施	健康福祉部	きのこ相談所、講習 会、展示会等		
	振り込め詐欺検挙強化月間 (再掲)	10月1日～31日	H23に振り込め詐欺の発生件数、被害額が増加したことに 対し、H25から実施	警察本部捜査第二課	普及啓発、情報収集、 積極的な声掛け	H24	本部長通知
	生涯学習月間	11月1日～30日	学ぶことの楽しさ・大切さを実感することで、生涯学習 に対する理解と関心を高揚	教育委員会事務局文化財・生涯学習 課	研修、情報提供、調査 研究、イベント等		
有害環境浄化活動強化月間 (再掲)	11月1日～30日	県民総ぐるみの運動として「青少年に有害な社会環境排 除県民運動」の強化	長野県子ども・若者育成支援推進本 部(企画部、教育委員会、県警)等	会議、普及啓発		要綱 (昭和53年4月制定)	
振り込め詐欺発生ゼロの日	毎月15日	計画的かつ集中的な被害防止対策を推進	警察本部捜査第二課	普及啓発、情報収集、 積極的な声掛け		本部長通知	
その他	長野の日(オリンピックメ モリアルデー)	2月7日	長野冬季オリンピックの精神を永遠に伝え、自然・環境 との関わりを考える日	日本青年会議所北陸信越地区長野ブ ロック協議会		H10	
	マイコファジストの日	5月15日	マイコファジスト(菌食主義)を広く訴求するため、5月 =May(マイ)と15日(イゴ)を合わせた語呂合わせ	信州きのこマイスター協会	シンポジウム開催	H22	
	長野県きのこの日	11月11日	生産量日本一を誇るきのこの形を「1」に見立てるとと もに、健康・美容に「いい」の語呂合わせ	JA全農長野		H15	
	長野県リンゴの日	11月22日	長野県産りんごの代表的な品種である「ふじ」が最盛 期、「いいふじ」の語呂合わせ	JA全農長野			

長野県における「日」「週間」「月間」

	名称	時期	日付の根拠	制定理由	取組主体	開始年	主な取組内容	制定根拠
県	振り込め詐欺検挙強化月間	2月1日～2月28日		平成23年において振り込め詐欺の発生件数、被害額の増加を受け、対策を強化するため、平成25年に設け	警察本部捜査第二課	平成24年	普及啓発、情報収集、積極的な声掛け	取組方針(本部長からの通知)
	有害環境浄化活動強化月間	2月1日～2月28日		青少年のためのよりよい社会環境づくりを県民総ぐるみの運動として展開するため、年間を通じ実施する「青少年に有害な社会環境排除県民運動」	長野県子ども・若者育成支援推進本部(企画部、教育委員会、警察本部)ほか		会議、普及啓発	要綱(昭和53年4月制定)
	春の農作業安全運動月間	5月1日～5月31日		農業機械の利用が多くなる春に、農作業の安全に対する意識の高揚及び農作業事故防止の徹底を図る。	長野県(農政部農村振興課)		対策の推進、普及啓発、講習会	
	健康長寿ながの食育強化キャンペーン強化月間	6月1日～6月30日	全国の食育月間	健康長寿ながのの実現をめざし、食育に関する強化キャンペーンを実施し、広く県民への普及啓発を図る。	長野県(健康福祉部健康長寿課)		普及啓発、講習会	要領(毎年度制定)
	人権について考える強調月間	7月1日～7月31日		一人ひとりの個性や多様性を尊重し、全ての人が互いに支えあいながら共に生きる「人権が尊重される長野県」へ向けた取組	長野県(企画部人権・男女共同参画課)		イベント、展示、チラシ配布	
	有害環境浄化活動強化月間(再掲)	7月1日～7月31日		青少年のためのよりよい社会環境づくりを県民総ぐるみの運動として展開するため、年間を通じ実施する「青少年に有害な社会環境排除県民運動」	長野県子ども・若者育成支援推進本部(企画部、教育委員会、警察本部)ほか		会議、普及啓発	要綱(昭和53年4月制定)
	暴走族追放強化期間	5月1日～6月30日	暴走行為が活発化する時期	この時期に活発化する暴走行為や暴走族への加入を防止し、離脱を支援する。	長野県暴走族追放県民会議(事務局:企画部生活文化課)		普及啓発、取り締まり	
	振り込め詐欺対策総合対策月間	6月1日～30日		平成23年において振り込め詐欺の発生件数、被害額の増加を受け、対策を強化するため、平成24年に設けた。	長野県(警察本部捜査第二課)	平成24年	普及啓発、情報収集、積極的な声掛け	平成24年における振り込め詐欺対策の取組方針について(本部長からの通知)
	健康長寿ながの食育強化キャンペーン強化月間(再掲)	9月1日～9月16日	全国の食生活改善普及月間	健康長寿ながのの実現をめざし、食育に関する強化キャンペーンを実施し、広く県民への普及啓発を図る	長野県(健康福祉部健康長寿課)		普及啓発、食育キャラバン隊の派遣、講習会	健康長寿ながの食育強化キャンペーン実施要領(毎年度制定)
	遊休農地解消月間	9月1日～30日		関係団体と協力して、遊休農地解消に向けた気運の醸成を図る。	長野県(農政部農村整備課)ほか		シンポジウム、パトロール、プラン作成	
	秋の農作業安全運動月間	9月15日～10月14日		秋の農繁期に、農作業の安全に対する意識の高揚及び農作業事故防止の徹底を図る。	長野県(農政部農村振興課)		農作業安全対策の推進、講習会等	
	きのこ中毒予防月間	9月20日～10月19日		きのこ中毒予防のための事業を実施。	長野県(健康福祉部)		きのこ相談所、講習会、展示会、広報活動等	
	振り込め詐欺検挙強化月間(再掲)	10月1日～10月31日		平成23年において振り込め詐欺の発生件数、被害額の増加を受け、対策を強化するため、平成25年に設け	長野県(警察本部捜査第二課)	平成24年	普及啓発、情報収集、積極的な声掛け	取組方針(本部長からの通知)
	生涯学習月間	11月1日～11月30日		学ぶことの楽しさ・大切さを実感することで、生涯学習に対する理解と関心を高める	長野県(教育委員会事務局文化財・生涯学習課)		研修、情報提供、調査研究、イベント、講習会	
	有害環境浄化活動強化月間(再掲)	11月1日～11月30日		青少年のためのよりよい社会環境づくりを県民総ぐるみの運動として展開するため、年間を通じ実施する「青少年に有害な社会環境排除県民運動」	長野県子ども・若者育成支援推進本部(企画部、教育委員会、警察本部)ほか		会議、普及啓発	要綱(昭和53年4月制定)
振り込め詐欺発生ゼロの日	毎月15日(土日祝日の場合はその前)		計画的かつ集中的な被害防止対策を推進。	長野県(警察本部捜査第二課)		普及啓発、情報収集、積極的な声掛け	取組方針(本部長からの通知)	
県以外	長野の日(オリンピックメモリアルデー)	2月7日	長野冬季オリンピックの開会式が開催された日	自然との共生を広く世界に呼び掛けた長野冬季オリンピックの精神を永遠に伝え、自然・環境との関わりを考える日。	日本青年会議所北陸信越地区長野ブロック協議会	平成10年		
	マイコファジストの日	5月15日	5月の英語=Mayを日本語読み「マイ」と15日(イゴ)を合わせ、マイコと語呂合わせ	マイコファジスト(菌食主義)を広く訴求するため	信州きのこマイスター協会	平成22年	シンポジウム開催	
	長野県きのこの日	11月11日	・生産量日本一を誇る長野県産やまびこしめじ、なめこ、えのきたけがピンと並んだ姿を数字の「1」に見立て ・健康に「いい」、美容に「いい」と、「いい、いい」の語呂合わせ		JA全農長野	平成15年		
	長野県リンゴの日	11月22日	・長野県産りんごの代表的な品種である「ふじ」が最盛期 ・「いいふじ」の語呂合わせ		JA全農長野			